

---

# ミラクルスーパーペーパーマリオ

ペーパークラフトマリオ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ミラクルスーパーペーパーマリオ

### 【Nコード】

N4937R

### 【作者名】

ペーパークラフトマリオ

### 【あらすじ】

ここは平和なスイートランド

背中に羽の生えた小人たちが楽しく暮らしていた

そしてこのスイートランドにはドリームジュエルっていう、伝説の宝石がある

ドリームジュエルを8つ全部集めるとどんな願いでも叶えてくれるという

そのスイートランドに魔の手が忍びよっていた

## キャラ紹介

マリオ

言わずと知れたキノコワールドの超英雄

お馴染みのクッパ軍団の他、ダークスペーシアやデスタイムスと戦い数々の危機を救って来た

ルリナ

ビビアンと瓜二つの影族の子供で、カゲの女王の娘

エターナルスターのマリオと同等の実力を持っている

<http://3092.mitemin.net/i23276/>

ミルフィー

スイートランドから来た羽の生えた小人

ドリームジュエルを集めるため

マリオ達と一緒に行動する

モンババ

モンババ城の城主であるドラゴン

タルトウートによって気が動転してしまうが

マリオのメテオパンチで正気に戻り、マリオ達にドリームジュエルを渡した

スイフ

高名な術師、自分の家を不思議な力で見えなくして姿を晦ませたマリオ達に協力し、パフェーラの無敵の力を打ち破る

スノーズー

フリーズパレスに棲む氷使い

圧倒的な冷気でマリオとバツガルフを氷漬けにしたが  
最後はルリナによって倒されてしまった

メフィスト一味

ドリームジュエルを狙う謎の一味

メフィスト

ドリームジュエルで良からぬ事を企む一味のリーダー  
部下たちにドリームジュエルを集めるよう命じてる

シフォリア

メフィストの側近

強力な催眠波で相手を意のままに動かせる

モンブラボ

メフィストの部下の一人

自慢の怪力で相手をねじ伏せる戦いが得意

パフェーラ

メフィストの部下の一人

普段は少女の姿をしているが、変身すると怪物になる

タルトウート

メフィストの部下の一人

怪しげな術と次元技を使い、相手を翻弄する

ミス・プリンセス・モモ

新しく入ったメフィストの部下

しかしその正体は………

## プロローグ

ここは平和な国スイートランド

ミルフィー「きゃははは」

楽しそうに水遊びをするミルフィー

そこへメフィストとシフォリアがドリームジュエルを狙ってやって来た

小人「女王様に知らせなきゃー!!」

小人たちは女王に知らせに行った

メフィスト「ドリームジュエルいただき！」

次々とドリームジュエルを奪うメフィスト

ミルフィーが最後の1つを持って逃げてた

メフィスト「そいつをよこせー!!」

最後のドリームジュエルを持って逃げるミルフィーを追うメフィスト

女王「はっ!!」

女王がメフィストに不思議な力を使う

シフォリア「メフィスト様!!」

メフィスト「しまった」

女王の力によってメフィストの持っていた7つのドリームジュエルが飛び散ってしまう

そしてミルフィーもドリームジュエルと一緒にどこかへ消えてしまった

シフォリア「大丈夫ですか？メフィスト様」

メフィスト「まあいい、あんな宝石いつでも集められる。城へ戻るぞ」

メフィストと側近のシフォリアは城へ戻っていった

そしてここはキノコワールド

ヒュウウウウウ　ドサ

ドリームジュエルと一緒にミルフィーが落ちてきた  
プロローグ終わり

## 第1話 マリオとルリナとミルフィー

ここはキノコワールド

ミルフィーが宝石を持ちながらヨレヨレと歩いてた

一方こちらはマリオの家

マリオとルリナがマリオカートWIIで対戦していた

マリオ「赤こうらでもくらえ」

ルリナ「甘いわよ」

赤こうらで攻撃したマリオだが、バナナで防がれてしまう

激しい追っかけが続き、ついに3週目

ドゴオオオオン

トゲゾーこうらをくらい、大幅ロスしてしまうルリナ

でも何とか逃げ切り、辛くも勝利

ルリナ「次はどこにする？」

マリオ「そうだな、GCマリオサーキットだ」

ピンポン

次の対戦をしようとした途端、チャイムが鳴った

マリオ「ルイージだな、ルリナ悪いけど出てくれんか？」

ルリナ「いいわよ」

玄関のドアを開けるルリナ、そこには宝石を持って倒れてるミルフイーがいた

ルリナ「マリオ！早くベッドに」

マリオ「どうしたんだ？」

大慌てで玄関へ走るマリオ

マリオとルリナはミルフイーをベッドへと運んだ

一方こちらは暗黒魔殿

部屋でモンブラボとタルトウートがメフィストとシフォリアの帰りを待っていた

モンブラボ「9997！9998！9999！10000！！！」

バーベルを1万回持ち上げて汗びっしょりのモンブラボ

タルトウート「相変わらずだねモンブラボくん、筋肉だけじゃなく脳も鍛えないと」



会話をするモンブラボとタルトウート、そこへパフェーラが来た

パフェーラ「タルトウートの言う通り、力だけじゃ無理よ筋肉おバカさん」

モンブラボ「なんだと！もっぺん言ってみろ！！！」

バカにされ、ブチ切れるモンブラボ

数十秒後、メフィストとシフォリアが帰って来た

メフィスト「やめんか！モンブラボ」

モンブラボ「はい……」

メフィストに注意され、反省するモンブラボ

パフェーラ「メフィスト様、例の宝石は手に入れましたか？」

メフィスト「あと少しのところで邪魔が入ってしまった」

シフォリア「ドリームジュエルは8つとも別々の場所へ飛ばされます、しかもその内の1つは誰かの家の近くにあります」

スイートランドでの出来事を部下たちに知らせるメフィストとシフォリア

モンブラボ「我らの願いを叶えるにはあの宝石が必要！命に代えても手に入れてみせます！！」

ドリームジュエルを探しに出ていくモンブラボ

タルトウート「モンブラボくんだけじゃ心配だから僕も行こう」

タルトウートも外へ出て行った

一方こちらはマリオの家

ミルフィー「ん……」

ルリナ「気が付いたのね」

ミルフィー「ここは？」

マリオ「安心しろ、ここは俺の家だ」

ミルフィー「私の名前はミルフィー、お願いします！助けてください  
！！」

マリオ達に助けを求めるミルフィー、マリオの新しい冒険が始まる  
うとしていた

第1話終わり

## 第2話 ミルフィーの不思議な力

泣いてマリオ達にお願いするミルフィー

ルリナ「落ちついて、何があったか話してくれる？」

ミルフィーはマリオ達に事情を話した

ミルフィー「私のすんでる所はスイートランドっていう平和な所なの。でもそこへメフィストたちがやって来たの」

マリオ「メフィスト？誰だそいつは？」

ミルフィー「メフィストは私たちの大事なドリームジュエルを奪いに来たのです」

ルリナ「ドリームジュエル？」

ミルフィー「これです」

唯一手元に残っているドリームジュエルをマリオ達に見せるミルフィー

マリオ&ルリナ「これがドリームジュエル」

ミルフィー「メフィストはドリームジュエルを8つのうち7つまで奪い、私が持つてるこの1個も狙って来ました」

女王様のおかげでメフィストの持ってた7つのドリームジュエルはこの世界にバラバラに散っていったのです」

ルリナ「そしてミルフィーも最後の1つと一緒にここに来ちゃったのね」

ミルフィー「はい、ドリームジュエルにはどんな願いでも叶える力があるのです」

ドリームジュエルの事をマリオ達に話すミルフィー

ルリナ「だったらすぐに行かなきゃ！全てのドリームジュエルがメフィストの手に渡ったらどんな恐ろしい事になるか」

マリオ「そのメフィストって奴をぶつとばしてやる」

ミルフィー「ありがとうございます」

家の留守をルイーダに任し、マリオとルリナとミルフィーの3人はドリームジュエルを探しにいった

マリオ「ところで、ドリームジュエルはどこにあるんだ？」

ミルフィー「待ってて、今このドリームジュエルの声を聞くから」

ミルフィーは自分の持つてるドリームジュエルに心を集中させた

ミルフィー「ドリームジュエル……ここから一番近いあなたの仲間……」

数十秒後、ミルフィーが目を開いた

ミルフィー「ここから一番近いのはハラハラ草原の向こうにあるわ」

マリオ「じゃあ、まずはハラハラ草原目指そう」

マリオ達はハラハラ草原目指して出発した

少し進むと大きな崖があった

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオ、しかしとても渡り切れるものではなかった

マリオ「どうする?」

ミルフィー「私に任せて、ん~~~~」

ピロロロン

ミルフィーは不思議な力を使って見えないブロックを出現させた

マリオ「おお!すごいぞ!」

ミルフィー「これで先に進めるわ」

マリオとルリナはミルフィーが出したブロックを足場にして崖を渡りきる

崖を越えて先を進むマリオ達、ドリームジュエルは手に入れられる

のか？  
第2話終わり

### 第3話 力を合わせて突き進め

ハラハラ草原を目指し、進んでいくマリオ達

一方こちらはハラハラ草原のとある場所

メフィストの部下の一人、モンブラボがドリームジュエルを探してた  
モンブラボ「ドリームジュエル、どこにあるんだ？」

ドリームジュエルを探すモンブラボ

その頃暗黒魔殿ではパフェーラが退屈そうにしていた

パフェーラ「あーあ、モンブラボもタルトウートも行っちゃったし」

メフィスト「案ずるな、直にお前にも活躍の場を与えてやる」

一方マリオ達はハラハラ草原を目指していた

少し進むと前からゴロンが転がって来た

マリオ「それっー!!」

クルン

次元技を使い、ゴロンを避けるマリオ達

通りすぎると次元技を解除してさらに進む

進むと今度は行き止まりで立ち止まってしまっ

ミルフィー「ん〜」

不思議な力を使い、辺りを調べるミルフィー

ミルフィー「ここを押してみて」

ミルフィーが指を指した所を押すマリオ

ゴゴゴゴゴゴゴ

地響きが鳴り、壁が開いていく

開いた壁の間を通り、先を進むマリオ達

少し進むとまたゴロンが転がってきた

マリオ「また同じパターンか」

クルン

余裕の表情で次元技を使うマリオ、しかし今度は逃げ場が無かった

ミルフィー「まずいわ！逃げ場が無いわ」

ルリナ「大丈夫、あたしにつかまって」

マリオとミルフィーはルリナにつかまった



ルリナ「カゲがくれ」

シューウウウン      ゴロゴロゴロゴロ

影の中に入ってゴロンをかわすマリオ達

通り過ぎると影の中から出てさらに進むのだった

進むとベタンが現れた

ピョン      ムギユ

ジャンプしてベタンを踏みつけるマリオ

進むと目の前が緑いっぱいの大草原に囲まれてた

ミルフィー「あそこがハラハラ草原よ」

ルリナ「あの向こうにドリームジュエルがあるのね」

ハラハラ草原を視界にとらえたマリオ達は一気に走りだした

その頃モンブラボはハラハラ草原の辺りを探してた

そしてマリオ達はハラハラ草原に着いた

ルリナ「風が気持ちいいわ」

マリオ「目指すはドリームジュエル！いざ出発」

ハラハラ草原に辿り着いたマリオ達はドリームジュエルを探しに行った

しかしマリオ達の行く先にはメフィストの部下の一人、モンブラボが待ち受けているのだった

第3話終わり

#### 第4話 星の岩の謎を解け

ハラハラ草原を進むマリオ達

少し進むと看板があつた

マリオは看板を読んだ

マリオ「えーと…なにになに？星の岩を調べれば新たな道が切り開かれる」

ルリナ「たぶんその先にドリームジュエルがあるのね」

マリオ達は星の岩を探しに行った

少し進むとサウンディーが襲ってきた

ウオンウオンウオン

サウンディーの音波攻撃をかわすマリオ達

マリオ「これでもくらえ」

ドカアアアアン

爆弾でサウンディーを1匹倒すマリオ、もう1匹もびっくりしてる間にルリナに倒される

サウンディーを倒し、先へ進むマリオ達

進むと今度はクリボーが20匹現れた

ルリナ「ファイア・ウィップ!!!」

ファイア・ウィップで20匹のクリボーを倒すルリナ

進んでいくと壁とジャンプ台があった

ジャンプ台で壁を飛び越えるマリオ達

敵のを倒しながら進んでいくマリオ達

行き止まりまで行つたが、星の岩はどこにもなかった

マリオ「ないじゃないか!星の岩なんて」

ミルフィー「もう通り過ぎちゃったかも」

ルリナ「戻りましょ」

マリオ達は次元技を使いながら来た道に戻って来た

一方こちらはハラハラ草原のある場所

ドリームジュエルを探すのに疲れたモンブラボが小休止していた

モンブラボ「メフィスト様にお届けする前に死んでは元も子もないからな」

その頃マリオ達は次元技を使いながら来た道に戻っていた

少し進むと星の形の岩があった

ルリナ「あつたわ！星の岩」

クルン

次元技を解除するマリオ

マリオ「ここはさっきの場所じゃないか！」

ジャンプ台の横にあった壁こそが星の岩だったのだ

2D視点で見ればただの壁だが、3D視点で見ると星の形の岩だ

ルリナ「ミルフィーお願い」

ミルフィー「任せて」

不思議な力を使い、星の岩を調べるミルフィー

すると星の岩が消え、土管が出てきた

出てきた土管に入るマリオ達

土管から出るとハラハラ草原の違う場所に出てきた

土管から出て先を進むマリオ達

進んでいくとメフィストの部下の一人、モンブラボと遭遇した  
第4話終わり

## 第5話 対決！モンブラボ

メフィストの部下の一人モンブラボと遭遇したマリオ達

モンブラボ「お前らは！？ん？」

ミルフィーの持つてるドリームジュエルに目を向けるモンブラボ

モンブラボ「おお！それこそまさにドリームジュエル！そっちへ渡してもらおうか」

ミルフィー「あなたメフィストの手下ね」

ドリームジュエルを渡せと要求するモンブラボだが、ミルフィーはそれを拒否する

モンブラボ「ならば牛ずくでも奪うまで！！」

ルリナ「それを言うのなら腕ずくでも奪うまで、とにかくドリームジュエルは渡さない」

遙か上空ではもう一人の部下であるタルトウートが高みの見物をしていた

タルトウート「お手並み拝見させてもらつよモンブラボくん」

モンブラボ「生意気な小娘だ！！！」

ドゴオオオオン

モンブラボのパンチで数メートル吹っ飛ぶルリナ

モンブラボ「そらそらそらー」

猛攻撃でルリナを攻撃しまくるモンブラボ

ミルフィー「このままじゃルリナさんが」

マリオ「大丈夫！大丈夫！」

ルリナの心配をするミルフィーだが、マリオは余裕だった

自慢の怪力で圧倒するモンブラボ

モンブラボ「ふん、弱すぎたようだな」

ルリナ「十分楽しんだかしら？」

モンブラボの言葉を聞いた途端、ニヤつとした表情になるルリナ

ルリナ「そろそろ遊びは終わりよ」

モンブラボ「ふざけやがって！」

怒ってルリナに攻撃するモンブラボ

ドカベキバキベコバキヤ

さっきとは打って変わってモンブラボを圧倒するルリナ



ルリナ「カゲぬけパンチ!!!」

バコオオオン

カゲぬけパンチでモンブラボをKOしたルリナ

ミルフィー「すごい!」

マリオ「なつ、だから言っただろ」

ルリナの勝利に喜ぶミルフィー

数秒後、モンブラボが立ち上がった

モンブラボ「なんて事だ、メフィスト様に報告せねば」

モンブラボはメフィストに報告しに去って行った

モンブラボを退け、先を進むマリオ達

進むとアルルタウンに辿り着いた

上空ではタルトウートが見ていた

タルトウート「さーで、あいつらをちょっと脅してやろうかな」

不思議な力を使い、移動するタルトウート

アルルタウンに着いたマリオ達はドリームジュエルの情報を得よう

と町の人たちに聞き出したのだった  
第5話終わり

## 第6話 アルルタウンの伝説

アルルタウンでドリームジュエルの情報を聞こうとするマリオ達

マリオ「ドリームジュエル知りませんか？」

ルリナ「こういう宝石なんです」

アルルタウン住人「いや、知らない」

ドリームジュエルを見せるマリオ達だが、住人達は全く知らないらしい

そこへ長老が来た

長老「おや？お前さんたちは？」

ルリナ「あなたが長老ですか？」

マリオ「おれ達ドリームジュエルを探してるんです」

ドリームジュエルを長老に見せるマリオ達

長老「ん？その宝石なら見た事があるぞ、数日前モンババっていうドラゴンが持っておった」

マリオ「モンババ？」

長老「モンババはこの村の守り神様じゃ」

長老はアルルトアンの伝説を話し始めた

長老「その昔、この町に巨大な悪が忍び寄り、人々は恐怖と絶望に支配されてた」

マリオ達にアルルタウンの伝説を話す長老

長老「誰もが全ての希望を捨てようとした時、天から1匹のドラゴンが舞い降りた、それがモンババじゃ、モンババは激しい炎で悪を追ひ払い、村の平和を取り戻したのじゃ」

くどくどと語る長老、3時間が経過し、マリオ達はウトウトしていた

マリオ&ルリナ&ミルフィー「ZZZZZZZZ……」

長老「とういわけで……」って、ちゃんと話を聞いてたか!？」

長老の返事にコクンと頷くマリ才達

長老「それならよい」

ルリナ「それでそのモンババはどこに住んでるんですか？」

長老「この先の古びた古城じゃが、まさか行く気じゃ？やめといった方がいい、あそこには侵入者を防ぐいくつもの罠があるんじゃない」

ルリナ「でもモンババに会ってドリームジュエルを渡してもらわないと世界が危ないんです!」

マリオ「今メフィストっていう悪いやつがドリームジュエルを狙ってるんです」

長老「どうしても言うなら生き方だけでも教えてやろう」

長老はマリオ達に古びた古城への行き方を教えた

長老「城は固く閉ざされ、入り口である青いブロックも城に住むものの以外にはその姿を見せない」

マリオ「青いブロックはモンババたち以外姿を見せない」

ミルフィー「でもドリームジュエルが城の中にあるならなんとしてみ入らないと」

一方こちらは古びた古城の中

ミニゴン「モンババ様、お出かけですか？」

モンババ「ああ、久しぶりにあの町の様子を見に行こうと思ってな」

モンババはアルルタウンを見にいくと外出しにいった

その頃マリオ達はアルルタウンの宿で一泊していた

マリオはゲームをやり、ルリナはしゅごキャラちゃんを読んでいた

ミルフィー「あしたはモンババの城へ乗り込もう、今日は明日に備えて早く寝よう」

マリオ「そうだな、お休み」

ルリナ「お休み……」

マリオとルリナが眠りに入ると、ミルフィーも部屋の明かりを全て消して自分も眠りに入る

そして夜があけた………

第6話終わり

## 第7話 進め！モンババ城目指して

アルルタウンの宿で一泊したマリオ達

マリオ「それじゃ、モンババ城目指して出発！！」

ルリナ&ミルフィー「おおー！！！」

マリオ達はモンババ城目指して出発した

一方こちらはモンババ城

モンババに仕えるドラゴン兵の2人が宝石を磨いてた

ドラゴン兵A「ふう……」

ドラゴン兵B「何でもモンババ様はこの宝石には不思議な力がある  
って」

ドラゴン兵A「不思議な力か……」

その頃マリオ達はブロックー山脈を進んでた

マリオ「ハッホッハッ」

ジャンプで次々と進んでくマリオ達

進んでいくと今度は壁があり、下に僅かな隙間しかなかった

ルリナ「あたしにつかまって、カゲがくれ!!!」

シュウウウン

マリオとミルフィーはルリナにつかまり、影の中に入っていく

影の中に入って壁の下を通っていくマリオ達

通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

影の中から出て先を進むマリオ達

一方こちらはアルルタウン

モンババが町に来ていた

モンババ「この町は最初の時とは変わってるが平和だ」

アルルタウンの平和に喜ぶモンババ

しかしその遥か上空ではメフィストの部下の1人、タルトウートが見ていた

タルトウート「あいつは使えるかも」

タルトウートは何をするつもりなのか？

そしてマリオ達はブロッキー山脈を進んでた

少し進むとトゲダルマーが現れた



マリオ「おりゃああ」

グッサアアア

トゲダルマーに接近したマリオだが、刺されてしまう

マリオ「いててて、うかつだった」

ルリナ「魔法の炎……！」

魔法の炎でトゲダルマーを攻撃するルリナ

トゲダルマー「ギャアアアアア……」

トゲダルマーは跡形もなく灰になった

一方こちらはアルルタウン

モンババ「そろそろ城に戻るか」

モンババは自分の城目指して飛んで行った

そしてマリオ達はモンババ城目指して進んでた

進むとクリボーと遭遇した

クリボー「ホームランにしてやる」

マリオ「ルリナ」

マリオはクリボーを掴むとルリナに向かって放り投げる

そして彼女は炎のバットを作り出した

ルリナ「それ」

カキーーーーン

炎のバットでクリボーを空の彼方へ打つルリナ

ルリナ「はい、場外さよなら負けね」

クリボーを軽く退け、先を進むマリオ達

進んでいくとついに大きな城を発見したのだった

第7話終わり

## 第8話 進入モンババ城

ついに大きな城を発見したマリオ達

ミルフィー「ここがモンババ城」

マリオ「ミルフィー、あのドアを調べてくれ」

ミルフィーは不思議な力を使って入り口のドアを調べた

ルリナ「どうだった？」

ミルフィー「凄く固く閉ざされているわ」

ルリナ「たしか入り口のスイッチは城に住んでる者しか見えなかったわね」

マリオ「隠れて様子を見よう、ルリナ頼む」

ルリナ「OK」

マリオ達は気の影に入り、ルリナのカゲがくれで一緒に入った

影の中で誰かがスイッチを押すのを待つマリオ達

そして5分が経過した

ミルフィー「まだあゝゝ？」

ルリナ「静かに、誰か来たわ」

ドラゴン兵の1人が城に近づき、マリオ達には見えないブロックを叩いた

ブロックを叩くと入り口が開いた

城に入るとドアは再び閉ざされた

ルリナ「見たわね？」

マリオ達は影の中から出て見えないスイッチを叩いた

ガコン

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ドアが開き、マリオ達は中に入った

モンババ城の中へ入っていくマリオ達

少し進むと不自然な壁があった

ルリナ「怪しいわね、ミルフィーあの壁調べて」

ミルフィーは不思議な力を使い、壁を調べた

ミルフィー「あった！隠し扉よ！でも鍵が掛かってるわ」

隠し扉を発見したミルフィーだが、扉には鍵が掛かってた

マリオ「この城のどこかにあるはずだ、探そう」

マリオ達は扉の鍵を探しにモンババ城内を探索した

扉の鍵を探すマリオ達、少し進むとドラゴン兵と遭遇した

ドラゴン兵A「城の者ではないようだが、どうやって入ったんだ？」

マリオ「俺達、こついつのを探してるんだ」

ドラゴン兵たちにドリームジュエルを見せるミルフィー

ドラゴン兵B「それと同じ宝石ならつい最近、モンババ様が見つけた」

ドラゴン兵C「モンババ様はおでかけ中だが、間もなく帰られるだろう」

ドラゴン兵A「モンババ様はこの城の一番上だ、この鍵を持ってくがいい」

マリオ達に鍵を渡すドラゴン兵

ミルフィー「ありがとうございます！これで先へ進めるわ」

マリオ達はドラゴン兵にお礼を言うと鍵の掛かった扉の所まで行った

鍵を使い、扉を開けるマリオ達

進むとドラゴクリボーと遭遇した

いきなり火を吐いて攻撃するドラゴクリボー

ミルフィー「あいつは敵よ」

ルリナ「カゲぬけパンチ！」

バアアアアン

カゲぬけパンチでドラゴクリボーを倒すルリナ

マリオ達は最上階にあるドリームジュエル目指してモンババ城を進むのだった

第8話終わり

## 第9話 3つのスイッチで道を切り開け

最上階を目指し、モンババ城の中を進むマリオ達

少し進むと今度は道が途切れていた

マリオ「それ！」

クルン

次元技を使うマリオ、右端に奥行の通路があった

次元技を使いながら進んでいくマリオ達

通り過ぎると次元技を解除した

一方こちらは暗黒魔殿

パフェーラが退屈そうにしていた

そこへモンブラボが帰ってきた

パフェーラ「随分早かったわね」

モンブラボ「申し訳ありません、メフィスト様、邪魔が入りました」

メフィスト「何者だ？」

モンブラボ「赤い帽子をかぶったヒゲの男と影のような女です」

マリオとルリナの事をメフィストに報告するモンブラボ

シフォリア「モンブラボはしばらく反省するように」

モンブラボ「それより、タルトウートは？」

シフォリア「タルトウートならあなたが出かけたすぐ後に行きました」

その頃マリオ達はモンババ城を進んでた

ルリナ「ファイアウィップ!!!」

バシバシバシューーン

ファイアウィップで4匹のドラゴクリボーを倒すルリナ

進むと階段があっただが、壁が邪魔していた

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウウン

カゲがくれで下を通ろうとするマリオ達、しかし…

ガン

頭を打ってしまい、影から出るマリオ達



ルリナ「いったああ、普通の壁じゃないわね」

マリオ「あれを見る」

マリオが指を指した先にはスイッチが3つあった

ミルフィー「叩いてみて」

マリオ「えい！」

ルリナ「やあ！」

マリオ「とう！」

試しに全部叩いたが、何の反応も無かった

マリオ「何も起きないな、ん？」

マリオは近くあった看板を読んだ

マリオ「えーと……、3つのスイッチを同時に押せば道は開ける」

ルリナ「スイッチを3つとも同時に押さないとだめね」

マリオ「ミルフィー、協力してくれるか？」

ミルフィー「もちろんよ！」

マリオ達はスイッチの下についた

マリオ「いいか？1、2の……………」

マリオ&ルリナ&ミルフィー「3!-!」

3人同時にスイッチを叩くマリオ達

すると階段にあつた壁が引つ込んだ

マリオ達は最上階目指して、階段を上っていくのだった  
第9話終わり

## 第10話 ついに遭遇！城主モンババ

最上階を目指して進むマリオ達

一方こちらはモンババ城の最上階

モンババが帰還してきた

ドラゴン兵「お帰りなさいませモンババ様」

モンババ「ああ、もしこの宝石が悪しき者の手に渡れば世界は終わりを迎えるだろう」

ドリームジュエルを悪しきものに渡すまいと守ろうとするモンババ達

一方マリオ達は城の3階を進んでた

ミルフィー「感じる、ドリームジュエルはすぐ近くにあるわ」

マリオ「じゃあ、もうすぐだな」

ドリームジュエルのある最上階を目指すマリオ達

進んでいくと今度はスイッチが5つあった

ルリナ「今度は5つのスイッチか」

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオ、するとスイッチに1〜5の番号が書かれてた

マリオは次元技を解除し、スイッチを番号順に叩いた

すると扉が出現し、マリオ達は入った

扉から出ると最上階への螺旋階段が続いてた

螺旋階段を上っていくマリオ達

数分後、ついに最上階に到着した

ミルフィー「このドアの向こうにドリームジュエルがあるわ」

ルリナ「行こう」

マリオ達は気を引き締め、部屋に入ってた

入ると当然そこにはモンババがいた

モンババ「何じゃ？お主達は？」

マリオ「おれ達、ドリームジュエルを探してるんです」

モンババ「ドリームジュエル？この宝石の事か？」

ドリームジュエルをマリオ達に見せるモンババ

ルリナ「はい、そうです」

モンババ「何故お主達はドリームジュエルを欲する？」

ドリームジュエルを欲しがる理由を問いかけるモンババ

ミルフィー「実は私のスイートランドが悪い奴らに襲われてメチャクチャになってしまって、元に戻したくてドリームジュエルを集めているんです」

マリオ「ドリームジュエルは全部で8つ、メフィスト達もそれを狙ってます」

ルリナ「全てのドリームジュエルがメフィストの手に渡ったらとてもない事になるわ」

マリオ「この子の世界を平和するためにもお願いします」

モンババにドリームジュエルを譲ってくれるようお願いするマリオ

モンババ「お主にたくそう」

モンババの言葉を聞き、喜ぶマリオ達

タルトウート「ンフフフ」

ドリームジュエルを渡そうとした途端、タルトウートが現れた

ミルフィー「あなたは？」

タルトウート「僕はメフィスト様のしもべタルトウート、以後お見知りおきを」

ルリナ「メフィストの手下ですって？」

戦闘体勢に入るマリオとルリナ

タルトウート「せっかくの冒険だし、簡単に手に入っちゃつまらないでしょ？僕がおもしろくしてあげるよ」

マリオ「何をする気だ！？」

タルトウート「ンフフフ」

不気味な笑いを浮かべるタルトウート、一体何をするつもりなのか？  
第10話終わり

## 第11話 逆襲！狂竜モンババ

マリオ達の前に現れたメフィストの手下タルトウート

タルトウート「ンフッフ、ハッ！」

モンババ「ウガアアアア」

怪しげな術をモンババに使うタルトウート

ルリナ「何をしたの!？」

タルトウート「ンフッフ、がんばってね」

タルトウートは瞬間移動でどこかに消えた

マリオ「モンババ、大丈夫か？」

モンババの所へ駆け寄るマリオ

モンババ「何じゃ？きさまらは？ここはきさまらのような輩が来るところじゃねえ！とつとと失せやがれ」

マリオ「うわああっ」

ルリナ「わあっ」

マリオ達に襲い掛かって来るモンババ

それを見たドラゴン兵の1人が仲間に報告しに行った

ドラゴン兵「大変だ！！モンババ様にご乱心だ！！！」

モンババ「グアアアア」

激しい火炎放射で攻撃するモンババ

ルリナ「魔法の炎！！！」

ドゴオオオオン

魔法の炎でモンババの火炎放射を相殺させるルリナ

マリオ「何とかしてモンババを正気に」

モンババを正気に戻そうと戦うマリオ達

しかし本気を出してしまえばモンババを殺してしまうかもしれない

モンババ「フン」

ブオオオオオオ

尻尾を振り回して攻撃するモンババ

マリオ「それ」

ルリナ「カゲがくれ」



マリオは次元技を使い、ルリナはカゲがくれでモンババの攻撃をかわす

マリオ「ルリナ、おれを思いっきり上に投げてくれ」

ルリナ「わかったわ」

ルリナはマリオを思いっきり上に放り投げた

マリオ「モンババー……！！正氣に戻れや……！！メテオパンチ」

ゴオオオオオオン

モンババ「ぐわああああ」

上空からメテオパンチをくらわすマリオ

モンババ「う……、これは？どういう事だ？」

マリオのメテオパンチで正氣に戻ったモンババ

モンババ「どうやらお主達に迷惑をかけてしまったようじゃ？」

ルリナ「いいんです、気にしないでください」

モンババ「このドリームジュエルをたくそう」

マリオ達にドリームジュエルを渡すモンババ

モンババ「必ず、世界を救うのだぞ！」

マリオ「絶対に救ってみせる！！」

世界を救うとモンババと約束するマリオ

一方こちらは暗黒魔殿

タルトウートが戻って来た

モンブラボ「どこに行ってたのだ？」

タルトウート「ちよっとね」

シフォリア「他のドリームジュエルのうち1つの場所が分かりました」

モンブラボ「是非、このモンブラボに、今度こそ手に入れてみせませう！！」

今度こそドリームジュエルを手にいれようと、やる気満々のモンブラボ

メフィスト「その場所なら既にパフェーラが向かっている、あいつにはあの力も与えている」

その頃マリオ達はモンババ城の外にいた

ルリナ「これでドリームジュエルは2つ」

ミルフィー「喜ぶはまだ早いわ、ドリームジュエルはあと6つある

んだから」

モンババ城でドリームジュエルを手に入れたマリオ達、しかし冒険はまだ始まったばかり、残りのドリームジュエルはどこにあるのだろうか？

第11話 終わり

## 第12話 ピーチ姫との約束

ドリームジュエルを手に入れ、モンババ城をあとにするマリオ達

ルリナ「これでドリームジュエルは2つ」

マリオ「残りは6つだな」

ミルフィー「じゃあ、次に一番近いドリームジュエルを場所を……」

マリオ「ちょっと待った」

ミルフィーが瞑想しようとした途端、マリオが止める

マリオ「キノコ城によってもいいか？」

ミルフィー「いいけど？」

マリオ「ピーチ姫にもこの事を伝えないと」

ルリナ「そうね、あたし達だけの問題じゃないもの」

マリオ達はキノコ目指して進んでった

一方こちらはキノコ城

ピーチ姫が花壇の手入れをしていた

ピーチ姫「いた」

トゲが刺さってしまい、怪我をするピーチ姫

キノピオ「ピーチ姫！」

慌てて救急箱を持ってくるキノピオ

一方こちらはキノコワールドのとある町

住人たちがドリームジュエルの話をしていた

住人A「何でも最近、洞窟に不思議な宝石があるって噂だぜ」

住人B「不思議な宝石か……、売ったら凄い価値があるだろうな」

住人の話を聞いて、ニヤッと笑うパフェーラ

パフェーラ「ドリームジュエルは洞窟にあるのね、あいつらを利用するか」

町の住人に魔の手を伸ばすパフェーラ

その頃マリオ達はキノコ城を目指していた

数十分後、キノコ城に着いた

マリオ「着いたぞ、ここがキノコ城だ」

ミルフィー「きれいな城ね」

ルリナ「えーと、ピーチ姫は……いた！おいピーチ姫――」

ピーチ姫に大声で叫ぶルリナ

ピーチ姫「マリオ！ルリナ！えーと、その子は？」

マリオ「ミルフィーだ」

ミルフィー「初めまして、ミルフィーです」

自己紹介をするミルフィー

ピーチ姫「よろしくね、私はピーチよ」

マリオ「実は今おれ達、ドリームジュエルを集めてるんだ？」

ピーチ姫「ドリームジュエル？」

ルリナ「これよ」

ドリームジュエルをピーチ姫に見せるルリナ

ピーチ姫「これどこかで見たことあるわ」

マリオ「本当か！？どこで見たんだ」

ピーチ姫「ちょっと待ってて」

必死に自分の記憶を検索するピーチ姫

数分後、ピーチ姫が何かを思い出した

ピーチ姫「これと同じ宝石がサリアシティの近くの洞窟にあるって情報があつたわ」

マリオ「そのサリアシティにはどうやって行けばいいんだ？」

ピーチ姫「黄色い土管で地下を通れば行けるけど、何でドリームジュエルを集めるの」

マリオ達にドリームジュエルを集める理由を問うピーチ姫

ルリナ「ドリームジュエルには凄い力があってね、8つ全部集めるとどんな願いでも叶えてくれるの」

ピーチ姫「どんな願いでも？」

マリオ「ああ、そのドリームジュエルを狙ってる悪い奴がメフィストだ」

ルリナ「あたし達、メフィストの手下とも会ったわ、その内の1人は直接戦わなかったけど」

ピーチ姫「全てのドリームジュエルがメフィストの手に渡ったら恐ろしいことになるわ、マリオ！絶対メフィストを倒すのよ」

マリオ「メフィストは必ず倒す」

メフィストを倒すと、ピーチ姫と約束したマリオ達、次なるドリームジュエルはサリアシティの近くの洞窟にあるらしい、そこではど

んな冒険がマリオ達を待ってるのか？  
第12話終わり



### 第13話 總統バツガルフ始動

メフィストを倒すと、約束したマリオ達はピーチ城をあとにした  
3つ目のドリームジュエルを手に入れるため、サリアシティ目指して出発した

マリオ「まずは黄色い土管を探さない」と

ミルフィー「私に任せて、ん〜」

ミルフィーは静かに目を閉じ、ドリームジュエルの声を聞こうとする

ミルフィー「お願いドリームジュエル……黄色い土管はどっちに行けばあるの？」

数十秒後、ミルフィーが目を開いた

ミルフィー「ここから西の方角に黄色い土管があるわ」

マリオ達は黄色い土管目指して西の方へ向かっていった

一方こちらはメガバツテンのアジト

軍団員数十人「1235、1236、1237」

腹筋や腕立て伏せをする数十人の軍団員

そこへペケダーが入って来た

ペケダー「みんな、頑張っておるな」

軍団員A「ペケダー様」

軍団員B「いつかバツガルフ様みたいに強くなってみせます」

バツガルフのように強くなろうと努力する軍団員たち、そこへバツガルフが来た

バツガルフ「そうか、その時が来るのを楽しみに待っておるぞ」

強い軍団員が生まれて来る日がいつか来ると喜ぶバツガルフ

バツガルフ「ペケダー、わしはしばらく旅に出る、留守を頼む」

軍団員「お出かけですか？バツガルフ様」

バツガルフ「ああ、とてつもなく嫌な予感がしているのではな」

バツガルフも世界に危機が迫っているのに感じていた

ペケダー「お気を付けください」

敬礼で挨拶をするペケダー

バツガルフは転送装置でゴロツキタウンの地下に行き、土管で地上に出た

その頃マリオ達は黄色い土管目指して進んでた

マリオ「ほい」

ジャンプでノコノコの動きを止めるマリオ

ポコン

マリオはノコノコを投げて目の前の敵を蹴散らす

ミルフィー「すごい！すごい！！」

マリオが敵を利用して一気に倒すを見て笑顔ではしゃぐミルフィー  
敵を倒し、先に進むマリオ達

少し進むと黄色い土管を発見した

マリオ「あつたぞ、黄色い土管だ」

マリオ達は黄色い土管に入ってしまった

その頃サリアシティでは大変なことが起きていた

町の住人がパフェーラに挑むがかなわない

パフェーラ「アタクシに勝とうなんて、本当におバカね」

町の人たちの必死の抵抗をあざ笑うパフェーラ

そしてマリオ達は土管で地下を進んでた

ルリナ「くさ……、早くサリアシティに繋がる土管を見つけましょ」

マリオ「そうだな……」

あまりの臭さに鼻をつまみながら進むマリオ達

地下を通って、サリアシティに繋がる土管を目指すマリオ達、サリアシティにはメフィストの手下の一人パフェーラが待ち受けている  
第13話終わり

## 第14話 廃墟の町サリアシティ

サリアシティ目指して地下を通るマリオ達

進むと道が肥でいっぱいだった

ルリナ&ミルフィー「マリオ先に行つて」

マリオ「冗談じゃねえ！！靴がよけい腐っちまうだろ」

ルリナ「レディにあんな臭い道の上を歩かせるつもりなの？」

バチバチ……

睨み合つて火花を散らすマリオとルリナ

ミルフィー「次元技を使つてみて」

クルン

ミルフィーに言われ、次元技を使うマリオ

しかし幅全体が肥でいっぱいだった

ルリナ「じゃあ、ジャンケンして負けた方が勝った方をおぶつていくのはどう？」

マリオ「乗つた！」

マリオ&ルリナ「ジャンケンポン!!」

ルリナ「やったー」

マリオ「……………」

ジャンケンに負けてしまい、号泣しながらルリナを負ぶって肥の上を歩くマリオ

肥の上を通り過ぎると、ルリナを降ろした

マリオ「後でよく洗っておこう」

地下を通っていくマリオ達

進むと今度はチカチヨロプーと遭遇した

穴を掘って襲い掛かるチカチヨロプー

マリオ「そりゃああ」

カキーーーーン

ハンマーでチカチヨロプーをホームランにするマリオ

敵を倒しながら進んでいくマリオ達

少し進むと狭い道があり、下は肥溜めでいっぱいだ

落ちないように慎重に渡っていくマリオとルリナ

ミルフィーはそのまま飛んで渡っていく

ズルッ

マリオ&ルリナ「わあああ」

ドボオオオオオン

足を滑らせてしまい、肥溜めまみれになってしまつマリオとルリナ

マリオ「トホホ……」

ルリナ「早くお風呂に入りたい……」

肥溜めまみれになりながらも進んでいくマリオ達

進むとサリアシティに繋がる土管を見つけた

ルリナ「やったわ！早くお風呂に入りたい」

大喜びで土管で地上に出るマリオ達

しかし出た先は廃墟と化した街だった

マリオ「ここがサリアシティか……」

ルリナ「看板にもちゃんと書いてあるわ」

ミルフィー「1人でも生き残っている人を見つけてドリームジュエ

ルの情報を」

マリオ達は生き残っている人を見つけようと必死に町中を探す

探しているうちに建物の陰からプリンのような顔をした女の子が出てきた

????「何かお探ですか？」

ミルフィー「うん、あなたは？」

????「私はパフィー、突然この町に悪い奴らが来て、私だけ助かったの」

ルリナ「悪い奴らって……」

マリオ「きつとメフィストたちの事だ」

パフィー「何か探してるなら私も協力するわ」

マリオ達に協力を要請するパフィー、彼女は敵か？それとも味方か？  
第14話終わり



## 第15話 カヌーで進め

廃墟と化したサリアシティでマリオ達に協力を要請するパフィー

ルリナ「ドリームジュエルを探してるんだけど」

パフィー「ドリームジュエル？」

ルリナ「これよ」

ドリームジュエルをパフィーに見せるルリナ

パフィー「これと同じ宝石が町のはずれの洞窟にあるって聞いたわ」

マリオ「本当か!？」

パフィー「町の人からパスワードを教えてもらってるから」

ミルフィー「この人も一緒に連れて行きましょ、もしかしたらそのパスワードが必要になるかも知れないし」

マリオ「そうだな」

マリオ達はパフィーも一緒に連れて行く事にした

パフィー「ありがとうございます」

マリオ達は洞窟目指して出発した

少し進むと超巨大ゴロンが転がって来た

マリオ「それ」

クルン

次元技で巨大ゴロンをかわし、やりすごすマリオ達

通り過ぎると次元技を解除し、さらに進んでいく

進んでいくと今度は水の流れる滝があった

マリオ「えーと……、おっ！ちょうどいい木があったぞ」

マリオとルリナは木を斬り、カヌーを作り始めた

数時間後、カヌーが完成し、マリオ達は乗り込んだ

木のカヌーで川を進んでいくマリオ達

パフィー「前方右に巨大な岩発見」

パフィーの支持を受け、左に避けるマリオ達

一方こちらは海の真ん中

自家用の水上ジェット機にバツガルフが乗っていた

バツガルフ「キノコタウンの港はまだか」

水上ジェット機でキノコタウンの港を目指すバツガルフ

そしてこちらは暗黒魔殿

モンブラボ「どわああああ」

タルトウート「ンフッフ」

モンブラボをからかうタルトウート

メフィスト「何やってんだ？お前ら」

それを見て呆れかえるメフィスト

シフォリア「メフィスト様、私はちょっと出かけてきますので失礼します」

どこかへ出かけにいくシフォリア

その頃マリオ達はカヌーで川を進んでた

進んでいくとゲッソーが飛び出して来た

ルリナ「魔法の炎！！」

ボオオオオオオ

魔法の炎で数十匹のゲッソーを一掃するルリナ

カヌーで川を進んでいくマリオ達

進むと大きな滝が見えてきた

数十秒後、マリオ達はカヌーから降りた

マリオ「ここからは歩きだな」

カヌーから降り、洞窟を目指すマリオ達、次は何が待ち受けているのか？

第15話終わり

## 第16話 4色ブロックの謎を解け

カヌーから降り、洞窟を目指すマリオ達

進むと看板があった

マリオは看板を読み始めた

マリオ「赤、赤、青、黄、赤、緑、黄、緑、青、赤、青、緑、緑、赤、黄」

ミルフィー「何かの暗号かしら？」

パフィー「それなら私がメモしておきました」

ルリナ「気がきくわね」

マリオ達はパフィーが書いたメモと、看板に書かれた文字を頭に入  
れて進んだ

進むと今度はとつてつもなく高い壁があった

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオ、するとさっきまでの壁が階段になった

次元技を使い、階段を上がるマリオ達

上がりきると次元技を解除した

洞窟を目指すマリオ達

進むと赤と青と黄と緑のブロックがあった

マリオ「4色のブロック……、そうだ！パフィーあのメモを」

パフィー「はい」

マリオに順番が書かれたメモを渡すパフィー

ポコンポコンポコン

メモに書かれた通りにブロックを叩くマリオ

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

叩き終わると地響きがなり、土管が出現した

土管に入り、地下に潜るマリオ達

地下に入るといきなりロボテトラーが襲ってきた

サッ ガン

ロボテトラーの攻撃をかわすマリオ達

マリオ「さすがロボ、玉まで鉄だぜ」

ルリナ「カゲぬけパンチ！！」

ズガアアン

カゲぬけパンチでロボテトラーを破壊するルリナ

ロボテトラーを破壊し、先を進むマリオ達

進むと紙が貼られていた

紙には野菜とお肉、と書かれていた

ミルフィー「何かしら？野菜とお肉って？」

パフィー「何かの暗号かしら？」

マリオ達は紙に書かれた言葉を頭に入れて中に進む

進むと下に僅かな隙間があいた壁を発見

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウウン

影の中に入って僅かな隙間の下を通るマリオ達

通りすぎると影から出て、さらに先を進む

進むと今度は10個のブロックがあった

しかもブロックには0～9の数字が書かれていた

数字の書かれた10個のブロック、果たしてこれは何を意味するの  
か？

第16話 終わり



## 第17話 ワンワン決死の覚悟

ドリームジュエルを手に入れるため、洞窟を目指すマリオ達

彼らの目の前には10個のブロックと大きな谷間があった

マリオ「野菜とお肉……」

紙に書かれていた言葉を思い出すマリオ

ミルフィー「野菜とお肉ね……」

パスワードを考えるマリオ達

数十秒後、ルリナが閃いた

ルリナ「わかったわ！83110029よ」

ビコンビコンビコン……

83110029とブロックを叩くマリオ

すると巨大な橋が出現した

パフィー「どうしてわかったの？」

ルリナ「野菜は831、とは10、でもってお肉は029、だから  
83110029」

ミルフィー「偉いのねルリナって」

パフィー「行きましょ」

橋を渡っていくマリオ達

渡っていく途中で鎖に繋がれているワンワンを見つけた

ワンワン「ワンワン」

ズバ

ルリナは人差し指から鋭い刃のような炎をだし、鎖を焼き切る

ワンワン「ワンワン」

笑顔でルリナの頭にかみつくワンワン

ルリナ「ちょっと痛いじゃない」

マリオ「まあ……あれがワンワンの愛情表現かな？」

パフィー「このワンワンをどこか安全な場所へ」

ルリナ「ここにいちや危ないから隠れるのよ」

そう言うところルリナはワンワンを手放した

ワンワン「クウーーン……」

去っていくマリオ達の後ろ姿を泣いて見送るワンワン

進んでいくとついに洞窟に辿り着いたマリオたち

しかし洞窟の入り口は瓦礫で埋まっていた

パフィー「あの中にドリームジュエルが」

ルリナ「あそこに何か書かれているわ」

マリオは近くにあった看板を読んだ

マリオ「黒き……、黒きって何だ？」

しかし看板はあまりにも汚れており、黒きしか読めなかった

ミルフィー「黒きって事は、黒い何かって事ね」

洞窟に入る方法を考えるマリオ達

考える最中、さっきのワンワンが追ってきた

マリオ「お前はさっきの」

ワンワン「ワンワン……!!」

ドガアアアアアン

渾身の体当たりで瓦礫を粉々にするワンワン

ミルフィー「黒きつてのはワンワンの事だったのね」

ルリナ「よくやったわ」

ワンワンの頭を優しくなでるルリナ

マリオ「ドリームジュエルはここのだ、いくぞ」

マリオたちはドリームジュエルのある場所を目指して洞窟に入っていた

パフィー「ウフフ……」

しかしマリオ達の背後ではパフィーが邪悪な笑みを浮かべているのだった

第17話終わり

## 第18話 赤と青の運命のスイッチ

ドリームジュエルのある場所を目指して洞窟に入っていくマリオ達  
入るといきなり行き止まりだった

パフィー「行き止まりじゃない？」

マリオ「心配ない、それ」

クルン

次元技を使い、隙間を通っていくマリオ達

通り過ぎると次元技を解除する

進んでいくと今度は15匹のバサバサが襲ってきた

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！」

マリオ「ガトリングフミィ！！！」

必殺技で15匹のバサバサを一掃するマリオとルリナ

バサバサを撃退し、先に進むマリオ達

一方こちらはメガバツテンのアジト

バツガルフが留守中の間、ペケダーが指揮をとっていた

ペケダー「A班はB班と交代、C班は引き続き警備を」

軍団員達は班別に行動しているらしい

軍団員「あの、ペケダー様」

ペケダー「なんだ？」

軍団員「うわさなんですが、空にいくつもの島が浮いてるって聞いた事があるんですが」

ペケダー「そんなもんあるわけないだろ、空に浮いてるのはラピュタ島とウーロン街ぐらいだよ」

その頃バツガルフはキノコタウンにいた

バツガルフ「えーと、キノコ城は」

キノコ城を目指すバツガルフ

そしてマリオ達は洞窟の中を進んでた

進むと赤と青のスイッチがあつた

パフィー「どっちを叩けばいい？」

ルリナ「とりあえず赤」

赤のスイッチを叩くマリオ達

パカ

マリオ&ルリナ&ミルフィー&パフィー「わあああああ」

落とし穴が開き、入り口まで戻されるマリオ達

マリオ「いてて、入り口まで戻ってしまったぞ」

ルリナ「今度は青の方を叩きましょう」

マリオ達は敵を倒しながらスイッチの所まで走っていく

スイッチの所までつくと、当然今度は青のスイッチを叩く

パカン

再び落とし穴が開き、入り口まで戻されるマリオ達

ルリナ「もう!」

2度も入り口まで戻され、イラつくルリナ

ミルフィー「どうなってるのかしら?」

マリオ「もう1回行って調べよう」

マリオ達は再びスイッチのある場所を目指していく

数分後、スイッチのある場所に辿り着いたマリオ達

マリオ達は近くに何かないか調べた

マリオ「それ」

クルン

次元技を使い、辺りを調べるマリオ

すると彼の前方に看板が1枚あった

マリオ「えーと、2つのスイッチのうち、1つは前に、1つは戻される、どちらが正しいかは運次第」

マリオ「わかったぞ！このスイッチは前に行ける方のスイッチがランドムに変わるんだ」

ミルフィー「じゃあ、さっきのは2回ともハズレだったのね」

ルリナ「マリオ、今度は絶対当ててね」

マリオ「わかってる、どっちだ？赤か？それとも青か？」

どっちが正解のスイッチか、真剣に考えるマリオ、果たして当てることはできるのか？

第18話終わり



## 第19話 洞窟パニック

ドリームジュエルのある場所を目指し、洞窟を進むマリオ達

2つのスイッチに道を阻まれ、どっちが正解か真剣に考えるマリオ

マリオ「ええい！青だ！！」

やけになって青のスイッチを叩くマリオ

ゴゴゴゴゴゴゴ

地響きが鳴り、先への通路が開く

パフィー「やったわ」

ルリナ「これで先に進めるわね」

通路が開き、先を進むマリオ達

進むと巨大な滝があった

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン

影の中に入って滝の中を通るマリオ達

通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

進んでいくと行き止まりだった

マリオ「それ」

クルン

マリオは次元技を使ったが、抜け道はなさそうだ

マリオ「抜け道なしか、ミルフィー」

ミルフィー「ん〜」

ピカアアア

不思議な力で見えないドアを出現させるミルフィー

ミルフィーが出したドアに入っていくマリオ達

ドアから出て先を進むマリオ達

進んでいくと突然ルリナの背後に大きな舌が現れて彼女の背中をなめる

ルリナ「!!!!何すんのよ!!!」

ガン

マリオ「いてええええ」

顔が赤くなり、マリオの頭を殴るルリナ

ルリナ「今あたしの背中なめたでしょ」

もめるマリオとルリナ

ミルフィーは不思議な力を使い、ルリナの背中をなめた敵を探す

ミルフィー「ん〜、いたわ！ルリナ、あそこに魔法の炎を」

ルリナ「わかったわ、魔法の炎！！」

ミルフィーが指を指した方向に魔法の炎で攻撃するルリナ

ベロベロ「ギャアアア」

炎に焼かれたベロベロがそのまま落下していく

マリオ「こいつは？」

ミルフィー「えーと、ベロベロね」

ルリナ「さっきあたしの背中をなめたのはこいつだったのね」

パフィー「これをあげるわ」

ベロベロの舌に瓶1本分の辛さ10倍ハバネロをかけるパフィー

ベロベロ「！！！！！！！！」

あまりの辛さにもがき苦しんで逃げるベロベロ

パフィー「レディーの背中をなめるところなのよ、覚えておきなさい」

ベロベロを退け、先を進むマリオ達

ミルフィー「感じる、ドリームジュエルは近いわ」

マリオ「もう少しだな」

洞窟の中を進んでいくマリオ達、目的のドリームジュエルはもうすぐだ

第19話終わり

## 第20話 ドリームジュエルゲット！そして

ドリームジュエルを手に入れるため、洞窟を進むマリオ達

ルリナ「魔法の炎」

ゴオオオオオオ

バサバサ数十匹「ギイイイイイ」

数十匹のバサバサを倒し、先を進むマリオ達

進んでいくと鍵のかかったドアの1本の土管があった

マリオ「鍵はあの土管の中だな」

鍵を探しに土管の中に入っていくマリオ達

中は思った以上に複雑だった

ミルフィー「複雑な迷路ね」

マリオ達は手当り次第、探していく

マリオはみんなにマジックを渡した

マリオ「いいか、鍵を見つけた奴がマジックで土管に印をつけるんだ」

ルリナ&ミルフィー&パフィー「うん」

マリオ達は手分けして鍵を探していく

ミルフィーのところにはバサバサが襲ってくる

ミルフィー「キャアアア」

自分の力ではかなうことができず、逃げるミルフィー

ルリナは次々と土管に入って、手当り次第探していく

土管から出ると、マリオと遭遇した

ルリナ「マリオ、そっちは？」

マリオ「まだ見つからない」

再び別れて探すマリオ達

パフィー「しつこいわね」

襲ってくるバサバサを振り払うパフィー

マリオ「ん、あった！」

ついに鍵を見つけたマリオ

マリオは土管に入る前にマジックで印をつけていく

土管の中を探すルリナ

探していくと、マリオが印をつけた土管を見つける

ルリナ「マリオが見つけたのね」

ルリナもすぐにマリオの後を追う

それに続き、パフィーとミルフィーも追っていく

出るところにはマリオが鍵を持って待っていた

ミルフィー「マリオ」

マリオ「ああ」

マリオは鍵を使い、ドアを開ける

出るところにはドリームジュエルがあった

ミルフィー「あったわ！ドリームジュエルよ」

パッ

パフィー「これはもらったわ」

目の前にあるドリームジュエルを奪っていくパフィー

ルリナ「パフィー、それを返しなさい」

パフィーにドリームジュエルを返せと要求するルリナ

マリオ「パフィー！お前は何者なんだ？」

パフィー「教えてあげる、パフィーとは仮の名、ワタクシの正体はメフィスト様に仕えし部下、パフェーラ！！」

ミルフィー「あなた、メフィストの手下だったのね」

自ら正体を名乗ったパフェーラ、マリオ達はドリームジュエルを奪い返せるのか？

第20話終わり



## 第21話 パフェーラ大变身！マリオ絶対絶命

自ら正体を名乗り、ドリームジュエルを強奪するパフェーラ

ルリナ「ドリームジュエルを返さない！！」

パフェーラ「嫌よ、これはメフィス様のためにあるもの」

そう言うとパフェーラは走って逃げていった

ミルフィー「マリオ、追うのよ」

マリオ「分かっている」

当然マリオ達もパフェーラを走って追いかける

パフェーラ「えやーー」

クリームで攻撃するパフェーラ

マリオ「それ」

クルン

次元技を使い、攻撃を避けるマリオ達

ドリームジュエルをめぐって追いかけるマリオ達とパフェーラ

数分がすぎ、パフェーラを行き止まりに追い詰めた

ルリナ「もう逃げられないわよ」

パフェーラ「私の本当の力を見せてあげるわ、パーフェパフェー  
ー！！！！」

何と！パフェーラは両手を左右に広げた

マリオ「何をする気だ？」

クルルルルル……

顔と両手を凄い勢いで回転させていくパフェーラ

シャキキン

ソフトクリームのようなモンスターに変身したパフェーラ

ミルフィー「なんなの！？」

マリオ「あいつもマネーラやマリールみたいに変身できるみたいだ  
な」

パフェーラの変身に驚くミルフィー

しかしマリオは過去にこういう変身は何度も見ているので平然とし  
ていた

ルリナ「来るわ」

パフェーラ「キーーーー」

キラララ…………

小さな無数の氷の刃を飛ばして攻撃してくるパフェーラ

ルリナ「魔法の炎！！」

ジュワアアア

魔法の炎で氷の刃を全て蒸発させるルリナ

マリオ「回転ハンマーーーーー！！！！」

ドゴオオオオ

回転ハンマーでパフェーラを攻撃するマリオ

ミルフィー「やった！！！！」

攻撃がヒットし、喜ぶミルフィー、だがパフェーラは平然としていた

パフェーラ「何のつもりかしら？」

ミルフィー「攻撃が効いてない…………」

ルリナ「だったら、魔法の炎！！！！」

今度はルリナが魔法の炎で攻撃を仕掛ける

炎に包まれていくパフェーラ

炎の中からパフェーラが出てきた

マリオ「だったら同時攻撃だ！！はあああ」

マリオはエターナルスターパワーを発動し、ルリナも大技を撃つ体勢に入る

マリオ「エターナルスターブレッド！！！」

ルリナ「デス・エンド・フレイム！！！」

ドオオオオオオオン

マリオとルリナの同時攻撃がパフェーラにクリーンヒット！！！！

パフェーラ「ウフフフフ」

同時攻撃もくらっても平然とするパフェーラ

マリオ「俺とルリナの攻撃も効かないのか」

パフェーラ「私にこの力がある限り、あんた達に勝ち目はないわ」

再びマリオ達を攻撃するパフェーラ

マリオ「まずい、一旦逃げよう」

どんな攻撃も効かないパフェーラから逃げるマリオ達、果たして倒

す術はあるのだろうか？  
第21話終わり

## 第22話 SOS！スイフからのテレパシー

パフェーラに戦いを挑んだマリオ達だが、どんな攻撃も通用しない  
マリオ「逃げるぞ」

どんな攻撃も効かないパフェーラから逃げ出すマリオ達  
パフェーラ「逃がさないわ」

当然パフェーラはマリオ達を仕留めるべく攻撃をする  
ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン

影の中に入ってパフェーラの攻撃を避けるルリナ

ルリナはマリオとミルフィーも一緒に影の中に入れた

影の中に入りながら逃げるマリオ達

一方こちらは暗黒魔殿

モンブラボがメフィストの前に立っていた

モンブラボ「メフィスト様、本当にパフェーラなんか任せられますか？」

メフィスト「心配いらん、パフェーラには私が無敵の力を与えている」

シフォリア「その力がある限り、パフェーラにはどんな攻撃も効かないのです」

タルトウート「だーから 心配することないよモンブラボくん」

その頃マリオ達はサリアシティに身を隠していた

パフェーラ「どこに行った？」

元の姿に戻り、マリオ達を探すパフェーラ

ミルフィー「このままじゃ私達に勝ち目はないわ」

ルリナ「まず、あの力を打ち消さない」と

マリオ「でも一体どうやって？」

パフェーラの無敵の力を打ち消す方法を考えるマリオ達

その最中、誰かからか、テレパシーでマリオ達に話した

????（おお、わしの話を聞いてくれる人が現れた）

マリオ「誰ですか？」

????（わしは高名な術師スイフじゃ）

スィフ（わしの力があればあやつの力を打ち消す事ができる）

スィフの力があればパフェーラの無敵の力を打ち消す事ができるらしい

ルリナ「スィフさん！どこにいるんですか？」

スィフに居場所を教えてもらおうルリナ

スィフ（サリアシティと洞窟の間に家がある、その家はわしの特殊な力で見えなくしておるんじゃない）

サリアシティとドリームジュエルのあった洞窟の間に家があり、スィフはそこにいらしい

マリオ「まずはその家を探そう」

パフェーラ「見つけたわ！」

スィフの家を探しに行こうとしたマリオ達だが、パフェーラに見つかってしまう

再び変身し、攻撃をするパフェーラ

マリオ「むん！」

カキキキキ

パフェーラの攻撃を弾き返すマリオ



マリオ「パフェーラは俺が食い止める、ルリナとミルフィーはスイフを見つけてくれ」

ルリナ「わかったわ」

マリオがパフェーラの相手をし、ルリナとミルフィーはスイフの家を探しに行った

パフェーラ「まずはあなたから始末するわ」

クリームを飛ばして攻撃するパフェーラ

マリオ「とう！」

クルン スカッ

次元技を使い、パフェーラの攻撃を避けるマリオ

クルン

マリオ「はああああ」

次元技を解除し、パフェーラに攻撃を仕掛ける

ドゴオオオオオオン

攻撃が当たったが、パフェーラは全然平気だった

パフェーラ「私に無敵の力がある限り、あなたの負けは確実よ」

自分に無敵の力がある限り、マリオに勝ち目は無いと言っパフェーラ

そしてルリナとミルフィーはスイフの家を見つける事ができるのか  
！？

第22話終わり

## 第23話 打ち破れ！パフェーラの無敵の力

スィフを助けるべく、見えない家を探すルリナとミルフィー

ミルフィーは不思議な力を使い、辺りをくまなく調べる

ルリナ「どう？」

ミルフィー「だめ、この辺りには無いわ」

ルリナ「じゃあ、もう少し先に」

ミルフィーの力を使いながらスィフの家を探すルリナ

その頃マリオはパフェーラと戦ってた

マリオ「ファイアボール乱れ撃ち！！メテオハンマー！！スーパー  
ジャンプ！！！！」

ボボボボボボ ドゴオオオオン ドガッ

いろんな技で攻撃をするマリオ

パフェーラ「いくらやっても無駄よ」

しかしパフェーラは無敵の力でノーダメージだ

数分の攻防が続き、マリオに疲れが見え始めた

マリオ「こうなったら、はああああ」

少しでも時間を稼ごうと、エターナルスターパワーを発動させるマリオ

パフェーラ「そんな事しても無駄よ」

エターナルスターのマリオに余裕の表情を見せるパフェーラ

そしてルリナとミルフィーはスイフの家を探してた

パアアアア

ミルフィー「見つけたわ!!」

不思議な力を使い、スイフの家を出現させたミルフィー

力を何度も使ったミルフィーはそのまま気を失う

ルリナ「よくやったわ」

ルリナはミルフィーを抱きかかえながらスイフの家に入っていく

家に入ると突然犬が吠えだした

犬「ワンワン!!」

ルリナ「あたし達は敵じゃないわ」

必死に犬を説得するルリナ

そこへ一人の老人が来た

スイフ「こら、マグルスやめなさい」

マグルス「ガルル……」

スイフに言われ、ルリナを威嚇するのをやめるマグルス

スイフ「わしがスイフじゃ」

ルリナ「パフェーラのあの力を打ち消してください」

スイフ「では急いで向かおう」

スイフはルリナと一緒にパフェーラのもとを目指していった

その頃マリオはパフェーラと戦ってた

マリオ「エターナルスター流星群……!!」

ドンドンドンドンドン

パフェーラ「アハハハハ」

エターナルスター流星群を遊びながら大笑いするパフェーラ

パフェーラ「今度はこっちの番よ」

ドンドンドンドンドン

猛烈な勢いで攻撃をするパフェーラ

ついにマリオのエターナルスターが解けてしまう

戦っているうちに、ルリナがスィフを連れて到着した

ルリナ「そこまでよ！スィフさん」

スィフ「アロラムレーシャーコントロールスピーリーアー・ハアアアアア  
アー！！！」

怪しげな術をパフェーラに向かって放つスィフ

パフェーラ「……？、なんのつもりかしら？」

ルリナ「マリオ、一気にやっつけちゃいませよ」

マリオ「えりやっ」

ジャンプで攻撃をするマリオ

ボカ

パフェーラ「いたああ」

今までどんな攻撃も平気だったのに、普通のジャンプ攻撃でダメージを受けるパフェーラ

パフェーラ「なんで？私にはメフィスト様から無敵の力をもらって

いるのに」

ルリナ「その無敵の力はもう消えてるのよ、スィフさんの力でね」

スィフの力でパフェーラの無敵の力を打ち消す事に成功したマリオ達、いよいよ反撃開始だ

第23話終わり

## 第24話 パフェーラ撃退！必殺のダブルパンチ

スイフの力によってパフェーラの無敵の力を打ち消す事に成功した  
マリオ達

ルリナ「覚悟はいいわね？パフェーラ」

パフェーラ「ふん！あんた達なんか無敵の力が無くても十分よ」

無敵の力が失われたが、パフェーラは強気になって襲い掛かる

パフェーラ「これでもくらいなさい」

クリームを飛ばして攻撃するパフェーラ

マリオ「よっ」

ルリナ「カゲがくれ」

クルン シュウウン

次元技や影の中に入って攻撃をかわすマリオとルリナ

マリオ「今度はこっちから行くぞ、ガッーンパンチ！！！」

ルリナ「カゲぬけパンチ！！」

バコオオオオオン



パフェーラ「きゃあああああ」

ダブルパンチでダメージを受けるパフェーラ

パフェーラ「ええい！」

パフェーラは今度は小さな無数の氷の粒を飛ばして攻撃して来た

ルリナ「ファイア流星群！！！」

ドオオオンドンドンドン

ルリナはファイア流星群でパフェーラの攻撃を打ち消して、直撃させる

マリオ達の攻撃を次々とくらい、パフェーラはついに倒れる

パフェーラ「そんな…このワタクシが…ありえないわ」

数秒後、パフェーラは元の姿に戻る

パフェーラ「くやしいけど、ここは引き下がった方が良さそうね。覚悟しておきなさい、次はこうはいかないんだから！」

パフェーラは泣きながらその場を去って行った

スイフ「うむ、見事であった」

マリオ「パフェーラはバッチリ追いつたぞ」

マリオ達の勝利を褒めるスイフ

スイフはサリアシティに何が起きたのか話し始めた

スイフ「お前さん達が来る少し前にあいつが来たんじゃない」

パフェーラはマリオ達が来る前にサリアシティに来ていたらしい

スイフ「あの女は町を次々と破壊して住人まで傷つけおった」

ミルフィー「多分ドリームジュエルの情報を聞いて、強引に聞き出そうとしていたのね」

スイフ「そこでわしは町を離れ、この家に住んだんじゃない。早く行って皆を直してやらねば」

マリオ「スイフさん、俺たちもあいつの仲間と戦ったことがあるんです」

モンブラボと戦った事をスイフに教えるマリオ

ルリナ「それと、もう一人いたけど、そいつとはまだ戦ってないわ」

パフェーラやモンブラボとは一度戦ったが、タルトウートとはまだ戦ってない

スイフ「その宝石はお前さん達のものじゃ、遠慮なくもらっておくれ」

ミルフィー「じゃあ、遠慮なく頂いちゃいましょ」

ルリナ「うん」

スイフからドリームジュエルを貰ったマリオ達

パフェーラの策略も跳ね除け、3つ目のドリームジュエルを手に入れた

次のドリームジュエルがある場所にはどんな冒険や敵が待っているのか？

第24話終わり

## 第25話 スイフの家で一休み

ここは暗黒魔殿

シフォリアがメフィストに報告していた

シフォリア「メフィスト様、パフェーラから報告がありました。油断しちゃった、ゆるしてちょーだいだそうです」

メフィスト「私が無敵の力を与えても止められぬとは、マリオよ、実に愉快である」

パフェーラを撃退されたのに、余裕の笑みを浮かべるメフィスト

モンブラボ「メフィスト様！次はこのモンブラボに、今度こそ始末してきます」

メフィスト「お前はもうしばらく休むがいい、代わりのものに行かせよう。タルトウート！」

メフィストに呼ばれてタルトウートが目の前に現れた

タルトウート「お呼びですか？メフィスト様」

メフィスト「お前もそろそろ遊びたい頃だろ」

タルトウート「そうね、あいつらは前に竜で遊ばせてやったし、今度はボクが直々に遊んでやるか」

メフィスト「ではマリオ達を始末してくるのだ」

タルトウート「ウィ〜〜」

パシュン

メフィストに命じられ、タルトウートは瞬間移動で行った

その頃マリオ達はスイフの家に行った

マリオ「それじゃ、次のドリームジュエルを……」

ドリームジュエルを探しに行こうとした途端、心臓を貫くような殺気が直撃する

ミルフィー「ル……ルリナさん？」

ルリナ「その前にお風呂よ」

ルリナは地下で肥に落ちてしまったので、その臭いを落とすのを優先している

マリオ「そ………そうだな……、まずこの臭いのを落とさないと……」

ドリームジュエルを探しに行きたいが、逆らうと殺されそうなのでマリオも風呂に優先する

スイフ「風呂ならあそこじゃ」

ルリナ「じゃあアタシとミルフィーから先に入るわ、覗いたら殺すわよ」

マリオ「お前の裸体なんか擬人化でも見る価値ねえのに……」

小声で小さくブツブツ言うマリオ

ルリナ「何か言った？」

凄い殺気とともに右手から炎を出すルリナ

マリオ「いえ！なんでもありません」

ルリナとミルフィーはそのまま脱衣所へ入っていく

手袋や帽子を脱ぐルリナ

脱衣所の外ではマリオがスイフと話してた

スイフ「マリオどのは色んな悪党と戦ってきたのか」

マリオ「ああ、あのルリナも最初は俺たちの敵だったんだ、その時はとんでもなく強かったさ、今では心強い味方だよ」

浴場ではルリナがミルフィーを洗ってた

ルリナ「こらミルフィー、じつとしてなさい」

ミルフィー「あはははは」

ミルフィーの体を洗おうとするルリナだが、動き回れて集中できない

数十分後、ルリナとミルフィーが出てきた

ルリナ「スツキリしたわ」

マリオ「次は俺の番だ」

スィフ「ではわしが洗濯しておいておこつ」

ルリナ「これもお願いします」

スィフに帽子と手袋を渡すルリナ

マリオ達の衣類を洗濯し始めるスィフ

そしてマリオは浴場で臭いを落としていた

グオングオングオングオン……

衣類を洗濯機に入れて洗うスィフ

スィフの家で一休みするマリオ達、次は4つ目のドリームジュエルを目指して出発だ

第25話終わり

## 第26話 北の大地を目指して

スイフの家で一休みするマリオ達

一方別の場所ではタルトウートが待っていた

タルトウート「早くこないかな？ボクが直々に遊んであげるのに」

そしてこちらは暗黒魔殿

パフェーラが不機嫌そうな顔して戻って来た

パフェーラ「しくじったわ、ドリームジュエルを奪い返されるなんて」

モンブラボ「そう落ち込むな、散っているドリームジュエルはまだ5個あるんだ」

パフェーラを励まそうとするモンブラボ

数十秒後、パフェーラはどこかへ歩いていく

モンブラボ「パフェーラ？どこへ行くんだ」

パフェーラ「お風呂よ！」

そして次の日になり、マリオ達は出発の準備をしていた

マリオ「ミルフィー」



ミルフィー「ドリームジュエル答えて……あなたの仲間を居場所を」

ミルフィーはドリームジュエルに心を合わせる

数十秒後、ミルフィーが両目を開いた

ミルフィー「次のドリームジュエルは最北の大地にあるわ」

ルリナ「サイハテ地方ね」

マリオ「あそこは寒いからな、炎系の技が使える奴は重宝だよ」

ルリナ「えい」

ポオオオオオ

指先から炎をだし、マリオ達を温めるルリナ

マリオ「助かった、ところでどうやって行くんだ？」

ミルフィー「地下を通っていけばつくわ」

ルリナ「土管のところまで戻りましょ」

マリオ達は土管を目指して進んでいった

一方こちらは地下道

バツガルフが敵を倒しながら進んでた

バツガルフ「ここはジメジメしてて臭いな」

地下道を進んでいくバツガルフ、進んでいくとだんだん寒くなってきた

バツガルフ「なんか急に寒くなったような？」

そしてマリオ達は土管を目指して進んでた

ルリナ「ファイア・ウィップ!!!」

バシイイイイ

ファイア・ウィップで敵を倒すルリナ

そして今度は5匹のクリボーと4匹のギクーが現れた

マリオ「ほら、エサだぞ」

エサだと言いながら、ギクーの口に爆弾を入れまくるマリオ

ドカアアアアン

大量の爆弾を食ったギクーは跡形もなく吹っ飛ぶ

一方こちらはマリオの家

ルイージが留守番をしていた

ルイージ「兄さん今頃どうしてるかなあ……」

兄の心配をしながら留守番するルイージ

クッパ城でもクッパが退屈そうにしていた

クッパ「最近、マリオの顔を見ないな」

クッパはここしばらくマリオとは会ってない

クッパ「星がだめなら宝石にでも願いを叶えてほしいくらいだ」

クッパはまだドリームジュエルの存在を知らないらしい

そしてマリオ達は土管を目指して進むのだった

第26話終わり

## 第27話 ユキリン村のバツガルフ

来たの大地目指して進むマリオ達

少し進むと土管を見つけた

土管の中に入っていくマリオ達

マリオ「北の大地は寒いから、そこに通じてる土管は凍ってるはずだ」

ルリナ「なるほど」

ミルフィー「その凍ってる土管を探しましょ」

マリオ達は凍ってる土管を探し始めた

一方地下道の別の場所ではバツガルフが歩いてた

バツガルフ「うゝゝ、寒い……」

体をガタガタ震わせながら進むバツガルフ

進んでいくと凍りついた土管を見つける

バツガルフは土管に入っていく

出るとそこは一面雪と氷の村だった

村人「誰じゃ？お前さんは？」

バツガルフに声をかける村人

バツガルフ「ああ、私はバツガルフという者だ」

村人「家に入って温かいお茶でも飲みなさい」

バツガルフを家の中に入れる村人

バツガルフ「ありがとう、ところでここは？」

村人「ここはユキリン村」

ユキリン村は1年中雪が降る村らしい

そして、ユキリン村から離れた所ではタルトウートが暇つぶしをしていた

タルトウート「ハイ」

ポン パアアア

怪しげな術を花火のように破裂させるタルトウート

タルトウート「暇だな……」

そしてマリオ達は地下を進んでた

マリオ「う……」

ミルフィー「寒い……」

ルリナ「魔法の炎」

ボオオオオ

魔法の炎で温まるマリオ達

ミルフィー「助かった」

マリオ「助かったよルリナ」

ルリナ「このまま一気に行きましょう」

マリオ達は凍り漬けの土管を目指して一気に走り出した

数分後、マリオ達は凍りついた土管を見つけた

ミルフィー「あったわ!」

マリオ「まずはドリームジュエルの情報を得よう」

ルリナ「それと何か食べないと」

マリオ達は土管を潜り、ユキリン村にいたのだった

第27話終わり

## 第28話 新たな仲間！機械総統バツガルフ

土管を潜り、ユキリン村に着いたマリオ達

出るといきなり村の女の子と遭遇する

女の子「あなただあれ？」

マリオ「俺はマリオ」

ルリナ「あたしはルリナ、でもってこっちがミルフィー」

女の子「初めましてユキミです」

マリオ「ユキミちゃん、ドリームジュエルって知ってるか？」

ユキミ「ドリームジュエル？」

ミルフィー「これがドリームジュエルよ」

ユキミにドリームジュエルを見せるミルフィー

ユキミ「ごめんなさい、でもおじいちゃんなら知ってるかも、おじいちゃんは村長なんだから」

ユキミは村長の孫らしい

ルリナ「まずは村長から話を聞こう」

数分後、マリオ達はユキミの跡について行った

村長の家に着いたマリオ達

そこには村長とバツガルフがいた

バツガルフ「ん？マリオくんではないか！久しぶりだな」

ルリナ「アジトの方はどうなってるの？」

バツガルフ「ペケダー達に留守を任せている、妙な胸騒ぎがするんだ」

マリオ「妙な胸騒ぎ？」

バツガルフ「このまま放っておけばかつて私がした事以上に大変な事になるかもしれん」

バツガルフもメフィスト達が悪い事をしている事に感づいてた

ルリナ「メフィスト達の仕業ね」

バツガルフ「メフィスト？誰なんだ？」

マリオ達はメフィスト達の事について詳しく話した

マリオ「俺たちは今までメフィストの3人の手下のうち2人と戦ってる」

ルリナ「一人は怪力自慢の男で、もう一人の女はマネーラやマリー



ルみたいに变身できる能力を持っていたわ」

モンブラボやパフェーラの事を話すルリナ

マリオ「まだ戦ってない奴は妙な術を使うんだ」

マリオもタルトウートについて語っていた

バツガルフ「それで、メフィストと会った事は？」

ミルフィー「私だけ……、スイートランドを襲われた時に一度」

ミルフィーはメフィストとシフォリアに会った事があるが、マリオ達はまだ無い

話をしているうちに村長がスープを持ってきた

村長「大変だったろ、これでも飲んで行きなさい」

ルリナ「ありがとうございます」

スープを遠慮なくいただくマリオ達

その後マリオ達はスープを飲みながら話を続ける

マリオ「ドリームジュエルって、知ってますか？これなんです」

村長にドリームジュエルを見せるマリオ

村長「そういえばフリーズパレスにキラキラ光るものが落ちてきた

な」

ミルフィー「もしかしたらそれがドリームジュエルかも」

バツガルフ「私も同行しよう！そしてメフィストを懲らしめよう」

スープを飲み終わるとマリオ達は村長の家を出た

マリオ「それじゃ、フリーズパレスに向けて出発！」

ルリナ＆バツガルフ＆ミルフィー「おおー！！！」

バツガルフを仲間に加え、フリーズパレスを目指してマリオ達は出発した

第28話終わり

## 第29話 雪の道のスノーキラー

フリーズパレス目指して出発したマリオ達

進むとアイスジュゲムが襲って来た

次々と氷のパイプを投げつけるアイスジュゲム

ルリナ「カゲぬけパンチ」

バコオオオオン

カゲぬけパンチでアイスジュゲムを倒すルリナ

バツガルフ「ライトニングキュー!!!!」

マリオ「ファイアボール」

地上に落ちたアリストゲゾーもマリオとバツガルフが一掃する

敵を倒しながら進んでいくマリオ達

進んでいくと道が途切れていた

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオだが、奥に行ける通路はない

ミルフィー「それ」

パアアアアア

不思議な力を使い、見えない足場を出現させるミルフィー

マリオ達はミルフィーが出現させた足場を使って渡っていく

渡りきると今度はスノーキラー大砲が3台あった

ドンドンドンドン

スノーキラーを次々と打ち出すスノーキラー大砲

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！」

マリオ「ファイアボール！！！」

ボボボボボボボ

ファイア系の技で次々と倒すマリオとルリナだが、いくら倒しても出てくる

バツガルフ「マリオくん達はスノーキラーを、私が大砲を破壊する」

マリオ「わかった」

マリオとルリナはスノーキラーの撃退、バツガルフが大砲に攻撃

バツガルフ「一点集中放電！！！」

破壊力を一か所に集めた電撃でスノーキラー大砲を次々と破壊する  
バツガルフ

撃ちだされたスノーキラーもマリオとルリナが殲滅

スノーキラーを倒し、先に進むマリオ達

一方こちらはフリーズパレス

一匹のアイスブロスが報告しに来た

アイスブロス「スノーズー様、先ほど何者かがスノーキラー大砲を  
破壊したそうです」

スノーズー「中々の強者だな、お前は再び警備を続ける」

アイス「ハッ！」

スノーズーの命令を受け、再び警備を続けるアイスブロス

スノーズーの手には何やら宝石が握られてた

フリーズパレス目指してマリオ達はひたすら進むのだった

第29話終わり

### 第30話 メフィストの秘密

フリーズパレスを目指して進むマリオ達

マリオ達から離れた所ではタルトウートが退屈そうにしていた

タルトウート「ヘクシヨイ、うう……さむ………」

体をガタガタ震わせながらマリオ達を待つタルトウート

そしてマリオ達は凍りの道を歩いてた

ツルン ツルーーー

足を滑らせてしまい、転ぶマリオ達

数十秒後、やっと勢いが止まった

マリオ「いてゝゝ」

ルリナ「……どこさわってんのよ……！」

ガン……！！

バツガルフ「あいたあああ」

顔を赤くしてバツガルフを殴るルリナ

ミルフィー「ケンカしないで……！」

大声でケンカを止めるミルフィー

ルリナ「こんな事してる場合じゃないわね」

バツガルフ「ドリームジュエルを集めるという重要な役目があった」

一方こちらは暗黒魔殿

メフィストが自分の部屋で何やら写真を見つめていた

コンコン

誰かがノックすると、メフィストはその写真を慌てて隠した

シフォリア「失礼します」

メフィストの部屋に入っていくシフォリア

メフィスト「シフォリアか」

シフォリア「メフィスト様、タルトウートからの報告です、マリオ達はまだ見えてないそうです」

メフィスト「そうか、だがその内来るだろう」

別の部屋ではパフェーラがパネポン、モンブラボが筋トレをしていた  
モンブラボ「フン！フン！フーン！……！」

マリオ達との再戦に備えて筋トレをするモンブラボ

パフェーラ「次に会った時があんた達の最期よ」

パフェーラもパネポンをしながら次なる作戦を考えてた

その頃マリオ達はフリーズパレスを目指していた

少し進むと看板があった

看板を読み始めるバツガルフ

バツガルフ「えーと……、この先のスノーロードの先に聖なる建物あり」

ルリナ「フリーズパレスの事ね」

マリオ「ようし！このまま一気に行くぞ」

勢いよく走っていくマリオ達

数分後、タルトウートと遭遇した

タルトウート「やっと来たね、あんまり遅いから帰っちゃったよ」

ミルフィー「あんたは！」

マリオ&ルリナ「タルト」



タルトウート「ノンノン、タルトウートだよ」

名前を間違われてるが、タルトウートは怒らず、正しい名前を教える

タルトウート「メフィスト様の命令でボクが直々に遊んであげよう」

バツガルフ「メフィストの手下のようだな」

ルリナ「そこを通らせてもらっわよ」

マリオ「どうしてもなら、力づくまでだ」

戦闘体勢に入るマリオ達、果たしてタルトウートを倒せるのか？

第30話終わり

### 第31話 VSタルトウート！怪術と次元技の恐怖

タルトウートとの戦闘を開始するマリオ達

バツガルフ「先手必勝！！！」

いきなりタルトウートに攻撃を仕掛けるバツガルフ

タルトウート「フッフン」

クルン

バツガルフ「何っ！？」

次元技を使い、バツガルフの攻撃を避けるタルトウート

マリオ「あいつも使えるのか」

ルリナ「バツガルフ気を付けて！そいつ次元技を使えるみたいよ」

クルン

タルトウート「それだけじゃないよ」

次元技を解除し、バツガルフのすぐ目の前に現れるタルトウート

タルトウート「うはー」

ムワアアアア

バツガルフ「何をする？」

怪しげな術をバツガルフにかけるタルトウート

バツガルフ「スパークリングサンダー！！！」

スパークリングサンダーをタルトウートめがけて放つバツガルフ

しかし電撃はマリオ達の方へ向かっていく

電撃をよけるマリオとルリナ

マリオ「どこを狙ってた！？」

タルトウート「この術にかかると思い通りに攻撃できないのさ」

ルリナ「マリオは次元技を使いながら待ち伏せて、こっちはアタシとバツガルフが」

マリオ「わかった」

3D視点をマリオ、2D視点はルリナとバツガルフで攻撃

タルトウート「フッフ」

クルン

次元技を使うタルトウートだが、マリオの前に出てしまった

マリオ「ファイアーナックル!!!」

ボゴオオオオ

タルトウート「あつーー」

マリオの攻撃でダメージを受けるタルトウート

タルトウート「し……しまった」

次元技を解除し、ルリナとバツガルフの前に現れる

タルトウート「キミにはこれを」

ルリナ「魔法の炎!!!」

ゴオオオオオ

タルトウート「うわああああ」

ルリナに何かの術をかけようとしたタルトウートだが、阻まれてしまふ

タルトウート「こ、今度こそ……」

再び術を仕掛けるタルトウート

シビビビビビビビ

ルリナ「……………?、全然平気ね、魔法の炎!!!」

ゴオオオオオ

ルリナ「キャアアッ!？」

魔法の炎を使った途端、自分でダメージを受けるルリナ

タルトウートはルリナにどんな術を使ったのだろうか？

果たしてマリオ達はタルトウートを退けて先に進む事ができるのか？  
第31話終わり

### 第32話 タルトウート撃退！ドカーンハンマー炸裂！！

マリオ達とタルトウートの戦闘は続く

バツガルフ「貴様！何をした？」

タルトウート「この術にかかった者は技を使うと自分がダメージを受けるのさ」

ルリナ「それがどうしたっていうの？だったら普通のパンチで攻撃するまで」

ルリナも同じ過ちは繰り返さず、今度はただのパンチで攻撃する

カアアアアアン

パンチでダメージを受けるタルトウート

タルトウート「中々やるね、僕も本気でやらせてもらっよ」

そう言くと、タルトウートが3人に増えた

3人に増えたタルトウートは一斉に攻撃した

カカカカカカカカン

パンチで杖で攻撃を次々と弾き返すルリナとバツガルフ

そこへ次元技を解除したマリオも現れ、タルトウートに攻撃する



マリオ「まだやる気か？」

怒りの表情で腕をポキポキ鳴らしながら近づくマリオとルリナとバツガルフ

タルトウート「今日はこの辺にしよう、でもキミ達とはまた遊びたいねグッバイ」

そう言うタルトウートはその場を去っていった

バツガルフ「危ないところだったな」

マリオ「先を進もう」

タルトウートを撃退したマリオ達はさらに先を進んでいく

少し進むとホワイトガボンが現れた

ルリナ「ファイア・ウィップ」

ファイア・ウィップでホワイトガボンを倒すルリナ

ホワイトガボンを倒し、先に進むマリオ達

進んでいくとついにスノーロードに到達した

マリオ「ついにスノーロードに着いたぞ」

バツガルフ「この先にフリーズパレスが」



ついにスノーロードに入ったマリオ達、目指すフリーズパレスまで  
あと少しだ  
第32話終わり

### 第33話 氷の道スノーロード

スノーロードに入っていたマリオ達

一方こちらはフリーズパレス

1匹のホワイトガボンがスノーズーに報告しに来た

ホワイトガボン「スノーズー様、スノーロードに侵入者です」

スノーズー「直ちに追い払え」

スノーズーは部下たちにマリオ達の撃退を命ずる

そしてマリオ達はスノーロードを進んでた

少し進むとホワイトガボンとアイスブロス2体が襲いかかった

マリオ「アイスボール返し!!」

ルリナ「ファイア・ウィップ」

バツガルフ「雷撃!!」

カキーンン バシィィィ ドオオオン

技を使い、敵を倒しながら進むマリオ達

進んでいくと水路があった

ルリナ「デス・エンド・フレイム!!!!!!」

バシャアアアアア

フルパワーで水の中にデス・エンド・フレイムを放つルリナ

ルリナ「これで少しは寒くないはずよ」

マリオ「よし、行こう」

水の中に入っていくマリオ達

マリオ「キノコ城の水と同じくらいだ」

ルリナのデス・エンド・フレイムでスノーロードの水はキノコ城の水と同じくらいの温度まで上がった

バツガルフ「もたもたするな!また寒くなってくるぞ」

マリオ達はスノーロードの水の温度が元に戻らないうちに急いで泳ぐ

数十秒後、マリオ達は水の中から出た

マリオ「さむ……」

バツガルフ「は、はや……く……」

ずぶ濡れでガタガタ震えるマリオ達

ルリナ「魔法の炎」

ボオオオオオ

魔法の炎でマリオ達を温めるルリナ

温めてる最中にアイスブロスが襲ってきた

アイスブロス「覚悟！！」

ルリナ「取り込み中に攻撃しないでくれる？」

ボオオオ

アイスブロス「ギャアアア」

炎を飛ばしてアイスブロスを倒すルリナ

アイスブロスを倒すと、ルリナは再びマリオ達を温める

数十分後、マリオ達が立ち上がった

マリオ「ありがとう、十分温まったよ」

ミルフィー「フリーズパレスまであと少しです」

マリオ達はフリーズパレスを目指してさらに進んでいく

一方こちらはフリーズパレス

アイスブロスがスノーズーに報告しに来た

アイスブロス「スノーズー様、侵入者が近づいてます」

スノーズー「急いでこの建物の全ての仕掛けを作動させろ」

アイスブロス「はい！急いでフリーズパレスの全仕掛けを作動させるんだ！！」

アイスブロス達は太急ぎでフリーズパレスの全ての仕掛けを動かすにかかった

第33話終わり

### 第34話 目指せ！スノーロードの山頂

スノーロードを進んでいくマリオ達

少し進むとルリナが走ってマリオをかばった

ドオオオオオオオオン

なんと上から氷のギロチンが落ちてきた

ルリナ「ふう……、大丈夫？」

マリオ「ありがとう」

バツガルフ「びっくりした…」

マリオ「この先もさつきみたいな仕掛けがあるかもしれない」

マリオ達は前はもちろん、上下にも気を付けながら進んでいく

進んでいくと巨大な氷塊が転がって来た

ゴゴゴゴゴゴ

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウウン

影の中に入ってやりすごすマリオ達

氷塊が通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

進んでいくと道が途切れていた

ミルフィー「まかせて！」

ピカアアア

ミルフィーは不思議な力で見えない階段を出現させた

マリオ達はミルフィーが出現させた氷の階段を上っていく

一方こちらは暗黒魔殿

タルトウートが戻ってきた

タルトウート「思ったより強いね、あいつら」

メフィスト「お前の術を持ってしても止められぬとは」

シフォリア「メフィスト様、少々の間、外出させてもらいます」

シフォリアは外に出て行った

シフォリア「もう一人仲間が欲しいところですわね」

シフォリアは自分たちの新しい仲間を加えるため、探しに行った

その頃、別の部屋ではパフェーラがモンブラボがボードゲームで遊

んでた

モンブラボ「バブル崩壊、自分のチップが半分に……」

バブル崩壊のマスに止まってしまい、手持ちのチップが半分になっ  
てしまうモンブラボ

パフェーラ「やったー！ー！！宝くじで1等大当たり」

それに対し、大当たりのマスに止まり、チップが一気に5枚増えた

圧倒的な大差をつけてパフェーラが勝利、

数秒後、タルトウートが入って来た

タルトウート「面白そうだね、僕にもやらせてくれるかい？」

モンブラボ「今度は絶対に勝つ！！」

タルトウートも入れて、3人で再びボードゲームをやるモンブラボ達

一方マリオ達はスノーロードを進んでた

数秒後、マリオ達は大きな建物の前に着いた

ルリナ「ここがフリーズパレス」

バツガルフ「この中のどこかにドリームジュエルがあるんだな」

マリオ「気をつける、何があるか分からんからな」



マリオ達は気を引き締めてフリーズパレスの中に入っていく

フリーズパレスの中にはスノーズーの部下たちが作動させた全ての  
仕掛けがマリオ達を待ち構えていた

第34話終わり

### 第35話 氷の神殿フリーズパレス

ついにフリーズパレスの中に入っていたMario達

いきなり2匹のアイスブロスが襲いかかって来た

アイスブロス2匹「プッププップ」

アイスボールを吐きだして攻撃する2匹のアイスブロス

Mario「ファイアボール!!!!」

ゴオオオオオオ

それに対し、Marioはファイアボールでアイスボールを蒸発させ、  
アイスブロスに直撃させる

アイスブロスを倒し、先に進むMario達

ピシッ

進むといきなり床が割れた

バツガルフ「バツバリアン!!!!」

キュオオオオオ

バツバリアンを召喚し、Marioを救い上げるバツガルフ

マリオ「サンキューバツガルフ」

ルリナ「いきなり床が割れるなんて」

ミルフィー「みんな！」

今度は左右にアイスビームを発射する銃が現れた

ビー――

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン　ビー――

影の中に入ってやりすごすマリオ達

ルリナ「ファイア流星群！！！」

影の中から手を出して攻撃するルリナ

ドカンドカンドカン

ルリナのファイア流星群で銃は次々と破壊される

トラップをくぐり抜け、フリーズパレスを進むマリオ達

一方こちらはフリーズパレスの一番奥の部屋

スノーズーが右手にドリームジュエルを持ってた

ホワイトガボン「侵入者がトラップを次々と突破しています」

スノーズーにマリオたちの事を報告するホワイトガボン

一方マリオ達はフリーズパレスの中を進んだ

ガンツ!!!

ルリナ「いったあああい」

見えない壁にぶつかってしまい頭を押さえるルリナ

ミルフィーは不思議な力で辺りを調べた

ミルフィー「この部屋は見えない壁の迷路になっているわ」

マリオ「ミルフィー、サポートを頼む」

ミルフィー「まかせて」

マリオ達はミルフィーにサポートしてもらいながら、少しずつ進んでいく

数分後、マリオ達は見えない壁の迷路を抜け、次の部屋に入っていく  
ルリナ「えい」

前方に小さな火の玉を一直線に飛ばすルリナ

火の玉はそのまま壁に当たる

マリオ「ここに見えない壁はないな」

何の罫もなさそうな部屋に入ったマリオ達、このまま突破なるか？  
第35話終わり

### 第36話 突破せよ！フリーズパレスの罠

フリーズパレスの中を進むマリオ達

マリオ達は罠が無さそうな部屋を進んでく

少し進むと突然バツガルフが落ちた

ルリナ「バツガルフ……！」

とっさにバツガルフの手をつかんで引き上げるマリオとルリナ

バツガルフ「あぶなかった……」

冷や汗をかきまくるバツガルフ

ルリナはしゃがんで床を触った

ルリナ「本物と立体映像が混じってるわ」

マリオ達はしゃがみながら床に手をつきながら進んでいく

何とかドアのどこまでたどり着き、次の部屋に入るマリオ達

そして今度は鍵がたくさん落ちてる部屋に入るマリオ達

ルリナ「すごい数の鍵ね」

マリオ「とにかく開けよう」

目の前にあるドアを開けようとするマリオ

パキキ

開けようとした途端、マリオが氷漬けになってしまう

ミルフィー「マリオ！」

バツガルフ「正しい鍵で開かないとさっきのように氷漬けになるだろう、ルリナくんは私とマリオくんを溶かしてくれ」

ルリナ「わかったわ」

今度はバツガルフが別の鍵でドアを開けようとする

しかしこれもハズレで凍ってしまふ

ルリナは氷漬けになっていくマリオとバツガルフを溶かしていく

数時間も溶かし続け、ルリナに疲れが見えてくる

マリオ「それ」

ガチャ キイイイイ

鍵でドアを開くマリオ、どうやら正解の鍵のようだ

一方一番奥の部屋ではスノーズーが氷のジグソーパズルを楽しんでいた

スノーズー「これは……ここ、これは……そこか……」

別の部屋ではマリオ達がスノーキラー大砲と戦ってた

バツガルフ「プラズマ・シャワー……!」

撃ちだされるスノーキラーを次々と殲滅させるバツガルフ

マリオ「ビッグファイアボール……!」

ルリナ「魔法の炎……!」

ダブルファイア攻撃でスノーキラー大砲を破壊するマリオとルリナ

全てのスノーキラーを倒すと赤い鍵が落ちてきた

赤い鍵をしまっておくマリオ

別の部屋に入り、進んでいくマリオ達

いきなり横から氷の槍が飛んできた

マリオ「うわっ」

しゃがんで氷の槍を避けるマリオ

今度は下から氷の槍が出てきた

ルリナ「っ……」



ルリナの右手に氷の槍が刺さってしまっ

マリオ「大丈夫か!？」

バツガルフ「これで状況は厳しくなっちゃった」

頼みの綱であるルリナが怪我してしまい、厳しくなってしまう

マリオ「ルリナはその右手を少しでも回復させるんだ、その間おれがお前の分まで頑張るから」

ルリナ「ありがとう、左手だけで頑張ってみるわ」

右手を怪我したルリナの分まで頑張ろうとするマリオ、そしてルリナも何とか左手だけで技を使いながら進んでいく

果たしてマリオ達はスノーズーのもとに辿り着くことができるのか？

第36話終わり

### 第37話 3つの鍵を手に入れる

ドリームジュエルを目指してフリーズパレスを進むマリオ達

ルリナが右手を怪我してしまい、状況は厳しくなってしまう

氷の槍の部屋を抜けると、いきなり白い霧に包まれる

ミルフィー「何も見えない」

ルリナ「みんな！そこを動かないで」

マリオ達に迂闊に動かないよう指示するルリナ

数十秒後、霧が晴れて来た

バツガルフ「誰だ？貴様は？」

ミルフィー「バツガルフが2人！？」

霧が晴れるとバツガルフが2人いた

バツガルフA「さては貴様バケバケだな」

バツガルフB「バケバケはお前の方だ」

ケンカしあう2人のバツガルフ

ルリナ「ストーーーーッブ！！！」

大声でケンカを止めるルリナ

ルリナ「どっちが本物かクイズで決めましょ」

マリオ「俺からいくぞ、問題、俺とペケダーが初めて会った場所は？」

バツガルフA & B「ゴロツキタウン」

ゴロツキタウンと答える2人のバツガルフ

マリオ「正解です！では第2問、バツガルフを騙していた青い帽子のカゲ族の名前は？」

バツガルフB「マ……マリリン」

バツガルフA「マジョリン、あのくそババア」

マリオ「バツガルフAさん正解です」

バツガルフ「さっさと正体を現せ」

偽バツガルフ「こうなったら全員地獄送りだ」

偽バツガルフは正体をあらわすと、バケバケになって襲い掛かった

それに対し本物のバツガルフは杖を高速でくるくる回してた

バツガルフ「エンジェルライト・キュー」

ズドオオオオオン

エンジェルライト・キューでバケバケを一撃で倒すバツガルフ

バケバケを倒すと黄色い鍵と地下への階段が現れた

黄色い鍵を手に入れ、地下へ降りていくマリオ達

降りると扉も何もなく、あるのは氷のスライドパズルのみ

マリオ「おれに任せろ」

スライドしてパズルを動かすマリオ

数分後、パズルが完成し、扉が出現した

扉を通って、次の部屋に進むマリオ達

次の部屋は向こう側の扉までの足場がない

ミルフィー「私に任せて」

パアアアアア

不思議な力で見えない氷の足場を出現させるミルフィー

マリオ達はミルフィーが出現させた氷の足場によって進んでいく

渡り切り、次の部屋に入るマリオ達

次の部屋は4つのヒントがあり、奥には鍵が三重にかかった三色の扉があった

マリオ「何か書いてあるぞ」

マリオは近くにある張り紙を読んだ

マリオ「えーと、鍵が欲しくば合言葉を言え」

ヒント1 水に関係している

ヒント2 生きた人は乗ってない

ヒント3 「ん」が最後

ヒント4 濁点は1つもない

ミルフィー「ドリームジュエルはこの奥にあるわ」

ルリナ「わかったわ、答えは幽霊船」

ピンポーン チャリ

ルリナが幽霊船と答えると正解音と共に青い鍵が落ちてきた

マリオ「これで鍵が3つ揃った」

赤と青と黄色の鍵を使い、扉を開けるマリオ達

数々の罨を突破し、マリオ達はいいにフリーズパレスの一番奥の部屋に辿り着いたのだった

第37話終わり

### 第38話 氷つく脅威！スノーズーの氷攻撃

ついにフリーズパレスの一番奥の部屋に辿り着いたマリオ達

入るとそこにはスノーズーがいた

しかもスノーズーの手にはドリームジュエルが握られてた

ミルフィー「見て！ドリームジュエルよ」

スノーズー「あの罫をよく抜けられたな」

バツガルフ「溶かされなくなったら今すぐそいつを渡してもらおうか」

スノーズー「嫌だな、それよりお前達にはこの神殿の魔除けの氷像にでもなってもらおうか」

ドリームジュエルを渡せと要求バツガルフだが、スノーズーはマリオ達を氷漬けにするつもりだ

スノーズー「始めようか、氷のショーを、アイスビーム」

ビイイイイイ

スノーズーのアイスビームで戦闘が開始した

マリオ「ファイアボール」

ファイアボールを投げつけるマリオ

スノーズー「フーーーー」

カチーーーーン

バツガルフ「何!?!」

吐息でファイアボールを凍らせてしまうスノーズー

マリオ「流石にここのボスだけあるな」

ルリナ「今度はあたしが、はああああ!!」

左手から凄い勢いの炎を発射するルリナ

スノーズー「むううう!!!!」

それに対し、スノーズーも凄まじい冷気で蒸発させる

ジュワアアアアア

攻撃が相殺し、辺りに水蒸気が広がる

ミルフィー「せめてルリナが右手を怪我してなければ」

マリオ「あんな奴瞬殺してドリームジュエルゲットだろうな」

数秒後、水蒸気が晴れてスノーズーの姿が見えてきた



スノーズー「アイスショー」

小さな無数の冷気の玉を出現させるスノーズー

ヒイイイイン

冷気の玉を一度に全部発射するスノーズー

マリオ「ファイアボール乱れ打ち!!!」

ルリナ「魔法の炎!!!」

バツガルフ「ライトニング・ショット!!!」

必殺技でスノーズーの冷気の玉を全部かき消すマリオ達

スノーズー「チェックメイト」

ミルフィー「いつの間に?」

いつの間にかルリナの左腕を握っていたスノーズー

スノーズー「フリーズショック」

パキキキキキ

フリーズショックでルリナの左腕が凍ってしまった

バツガルフ「しまった」

ルリナの両腕が使用不能になってしまい、大ピンチのマリオ達

スノーズー「ブリザード……！」

口から吹雪を吐き出すスノーズー

ルリナ「あたしにつかまって！カゲがくれ……！」

シュウウウン

マリオ達はルリナにつかまりながら一緒に影の中に入っていく

カゲがくれでブリザードを避けたマリオ達

厳しい状況になってしまったマリオ達、果たしてスノーズーを倒せる手はあるのか？

第38話終わり

### 第39話 氷を溶かせ！ルリナ必殺のファイア・ストーム

マリオ達とスノーズーの戦闘は続く

スノーズー「つらら流星群！！！」

無数のつららを流星群のように降らせるスノーズー

バツガルフ「ぐあああ」

つらら流星群の1つに当たってしまうバツガルフ

スノーズー「フフフフ、次は絶対零度！！！」

パキキイイイイイ

計り知れないほどの冷氣で攻撃するスノーズー

ミルフィー「あああああ」

バツガルフ「危ない！！！」

カチーーーーン

ミルフィーをかばってバツガルフが氷漬けにされてしまう

マリオ&ルリナ「バツガルフ！！！！！」

スノーズー「まずは一体」

マリオ「赦さない、スーパーファイアボール!!!!」

ドオオオオオオン

スノーズー「ぐわああああ」

スーパーファイアボールをスノーズーにクリーンヒットさせるマリオ

マリオ「あたたたたたたたた」

容赦ない炎攻撃を連発させるマリオ

スノーズー「うおおおお」

ルリナ「マリオ!その調子よ」

徐々にスノーズーを追い詰めていくマリオ

スノーズー「調子に……乗るな!!!!!!」

スノーズーの怒涛の冷氣攻撃でマリオまでも凍ってしまう

スノーズー「次はお前の番だ」

ルリナ「あんただけは許さない、ファイア・ストーム!!!!!!」

右手でファイア・ストームを放つルリナ

スノーズー「アイスビーム」

それに対し、スノーズーもアイスビームを発射する

ルリナ「く……」

右手の痛みには耐えながら放ち続けるルリナ

ミルフィー「ルリナがんばって」

ルリナの応援をするミルフィー

スノーズー「お前も氷漬けになって魔除けの氷像になるがいい」

ルリナ「お断りよ、あたし達にはまだ行かなきゃならない所があるんだから」

ルリナの気迫はスノーズーを徐々に圧していき、そして……

ゴオオオオオオオオオ

スノーズー「ぎゃああああああ」

ミルフィー「やったー」

ファイア・ストームでスノーズーを倒したルリナ

数分後、マリオとバツガルフの氷も溶かした

バツガルフ「うーん……」

マリオ「あいつは？」

ミルフィー「ルリナがやつつけてくれたよ、それから」

手に入れたドリームジュエルを見せるミルフィー

バツガルフ「やったな」

マリオ「よくやったぞ、ルリナ」

ルリナ「それよりユキリン村に行って何か温かいものが欲しいわ」

マリオ「そうだな」

マリオ達はフリーズパレスを跡にし、ユキリン村に向かって行った

スノーズーを倒し、4つ目のドリームジュエルを手に入れたマリオ達、残るドリームジュエルも4つだ

第39話終わり

## 第40話 ピーチ姫が危ない！迫るシフォリアの魔手

ドリームジュエルを手に入れ、ユキリン村に向かうマリオ達

一方こちらは暗黒魔殿

パフェーラ「あー…たいくつ……」

あまりに退屈でやる気のないパフェーラ

タルトウート「慌てず待っていればチャンスは来るから」

モンブラボ「そういえば、シフォリアは？」

メフィスト「シフォリアなら出かけて行ったぞ」

一方こちらはキノコタウン

シフォリアがお城を目指して歩いてた

シフォリア「私達の新しい仲間に対応しい人を探さないと」

そしてこちらはキノコ城

ピーチ姫が花壇の手入れをしていた

ピーチ姫「マリオ……」

マリオ達の無事を祈りながら花壇の手入れをするピーチ姫

その頃マリオ達はユキリン村の村長の家にいた

温かいスープを飲んで体が温まっていくマリオ達

バツガルフ「こういう場所ではやっぱりこれだな」

ルリナ「温まるわ」

マリオ「あいつに氷漬けにされた時はひえひえしたよ、ひえー」

カチーーン

ルリナ&ミルフィー「さむ……」

マリオのあまりにも寒いギャグに凍ってしまうルリナとミルフィー

ユキミ「みんな仲がいいのね」

村長「お前さんらはこれからどうする気だ？」

マリオ「もちろん残りのドリームジュエルを集めに行きます」

ユキミ「こんな話知ってる？迷路のような空間があって、そこに迷うと骨になるまで出られないの」

マリオ「おいおい冗談じゃないぜ、それならサルガッゾーンの方がましだ」

ユキミの話を聞いて怖気づくマリオ



ユキミ「そこは確かラ……ラ……ラ………」

マリオ&ルリナ&バツガルフ「ラ？」

ユキミ「ごめん、忘れた」

ドサッ

ユキミのど忘れにこけるマリオ達

そしてこちらはキノコタウンのキノコ城付近

シフォリア「次は新入りにマリオ達の始末を」

一方ピーチ姫は自分に危機が迫っているとも知らず、お茶を飲んでた

マリオ達もピーチ姫に危機が迫っているとも知らずにいた

バツガルフ「私は4のデビルを出そう」

ルリナ「あたしは4のエンジェル」

マリオ「それなら7のウィザード」

カードゲームで遊ぶマリオ達

シフォリア「あなたも尽くしてもらっわ、メフィスト様のために」

ピーチ姫を操ろうと、シフォリアはキノコ城へと向かっていくのだ

つた  
第40話終わり

## 第41話 堕ちたピーチ姫

ユキリン村の村長の家でくつろぐマリオ達

村長「今日はここに泊まっていきなさい」

マリオ「今日はここに泊まって、明日出かけよう」

ルリナ「賛成」

村長の家で一泊する事にしたマリオ達

そしてこちらはキノコ城

カゲ三人組が遊びに来ていた

ビビアン「ピーチ姫、こんにちは」

ピーチ姫「まあ三人お揃いで」

マジョリン「遊びに来ただわさ」

マリリン「んあ〜」

ピーチ「そう、でも今読書してるから、客室で待ってもらえないかしら」

マジョリン「お言葉に甘えさせてもらおうとするか」

ビビアン達はピーチ姫の読書が終わるまでの間、客室で待つことにした

ビビアン「ところで何して遊ぶ？」

マリリン「んあゝんあんあゝゝ」

マジヨリン「マリオテニスだって、冗談じゃないよ！マリオパーティだよ」

マリリンの言葉を通訳し、自分が有利なゲームを要求するマジヨリン

ビビアン「アタイ、マリオカートがいい」

ビビアンも得意なゲームを要求する

3人とも自分が得意なゲームをやりたいがっている

睨みあってけんかするカゲ三人組、しかし……

マジヨリン「ここは平和的にジャンケンで決めよう」

ビビアン&マジヨリン「最初は」

マリリン「んあゝゝ」

3人とも違うのを出していた

マジヨリン「ビビアン！最初はグーだろー！」

ビビアン「お姉さまの行動の1つくらいお見通しよ」

マジヨリンがパーを出すのを予測してチョコキを出していたビビアン

マリリンはそのままグーを出していた

数回のあいこが続き、ビビアンが勝利

ビビアン「やったあ」

仕方なくマジヨリンとマリリンもマリオカートでプレイ

キャラクターとカートが決まり、いよいよコース選び

ビビアン「コースはお姉さまに選ばせてあげる」

マジヨリンはなるべくビビアンが不利そうなコースを選ぶ

遊んでいるうちにシフォリアが城に入ってきた

一気にピーチ姫の部屋に向かうシフォリア

ピーチ姫「キャアアアア」

マリリン「んあ」

マジヨリン「ピーチ姫の悲鳴」

ピーチ姫の悲鳴を聞いたビビアン達は急いで部屋にかけつけた

ピーチ姫「あなた一体何者!？」

キツとした表情で話しかけるピーチ姫

シフォリア「尽くしてもらいますよ、メフィスト様のために」

ピアノ「あなたがルリナから聞いていたメフィストの手下の一人  
ね」

マジョリン「あなたなどルリナ様の手をわずらせるまでもないさ」

シフォリアに一齐攻撃をしかけるマジョリン達

数分で決着がつき、カゲ三人組はみんなボロボロだ

シフォリア「あなた達の相手をしてる場合ではないのです、ピーチ  
姫、はあああああ」

キュワワワワワワ

両手から強力な催眠波を出すシフォリア

ピーチ姫「何これ……」

シフォリアの催眠波を浴びせ続けられるピーチ姫

数十秒後、ピーチ姫の態度が一変した

シフォリア「では行きましょ」

シフォリアはピーチ姫と一緒にどこかへ行ってしまった

数十分後、ビビアン達が目を覚ました

ビビアン「ピーチ姫は？いない！」

マジヨリン「ビビアン、あんたはこの事をルリナ様に報告じゃ」

ビビアン「わかったわ」

ビビアンはピーチ姫がいなくなった事をマリオ達に知らせに行った  
マリオ達はこの事をまだ知らず、ユキリン村の村長の家で一泊して  
いたのだった

第41話終わり

## 第42話 ビビアンとの誓い

ピーチ姫が洗脳された事を知らずにユキリン村で一泊するマリオ達

一方こちらは暗黒魔殿

シフォリアが帰って来た

シフォリア「メフィスト様、ただいま戻りました」

パフェーラ「どこ行ってたの？」

シフォリア「探してたのです、私達の新しい仲間を」

モンブラボ「そいつは今どこにいるんだ？」

シフォリア「ある場所に送りました」

タルトウート「ラビリンスファントムだね」

シフォリア「さすがねタルトウート」

シフォリアが新しい仲間をラビリンスファントムに送り込んだのを見抜くタルトウート

メフィスト「もしドリームジュエルもそこにあるなら、その新入りに任せてみよう」

メフィスト達はマリオ達の始末とドリームジュエルの奪還を新入り



に任せる

そして次の日……

マリオ「さて元気もいっぱいになったし」

ルリナ「次のドリームジュエルを探しに行きましょう」

バツガルフ「次のドリームジュエルはどこにあるんだ？」

ミルフィー「分からない……」

マリオ&ルリナ&バツガルフ「ええ……!?」

次のドリームジュエルの場所はミルフィーも分からないらしい

ミルフィー「でも感じるの…別次元の空間にあるような気がするの……」

マリオ「それって、サルガッゾーンみたいなところか？」

ルリナ「その可能性はあるわね」

バツガルフ「とにかくそこに行ける方法はあるはずだ」

マリオ達は次のドリームジュエルを手に入れるため、別次元の空間に入る方法を探し始める

探しているうちにビビアンが来た

ビビアン「マリオー……!!」

ルリナ「ビビアン!」

ビビアン「ピーチ姫が……いなくなっちゃったの!!」

マリオ&ルリナ&バツガルフ「……!!」

ピーチ姫がいなくなった事を知り、驚くマリオ達

ビビアン「昨日、キノコ城にメフィストの手下がやってきたの」

マリオ「ピーチ姫をさらったのはどいつだ!？」

モンブラボとパフェーラとタルトウートの写真を見せるマリオ

ビビアン「この中の誰でもないわ」

ピーチ姫を連れていったのはシフォリアである

ミルフィー「もしかしたらシフォリアかも」

バツガルフ「シフォリア?」

ミルフィー「スイートランドを襲った時にメフィストと一緒にいた奴よ」

ビビアン「アタイとお姉さまは3人で戦ったけど齒が立たなかったわ」

シフォリアにピーチ姫を連れて行かれて悔し涙を流すビビアン

ルリナ「ビビアン、ピーチ姫は必ず連れ戻すわ」

バツガルフ「私もかつてピーチ姫にひどい仕打ちをしてしまった、命に代えても取り戻す」

マリオ「絶対にメフィスト達を倒してやる」

ビビアン「ありがとう……」

マリオ達の暖かさに笑顔になるビビアン

ルリナ「ビビアンはマジョリンとマリリンの手伝いに行つて」

ビビアンはマジョリンとマリリンを手伝いに戻っていった

マリオ「だが今はドリームジュエルだ、なんとしても残り4つを見つけないければ」

マリオ達はメフィストの野望を止めるためにも残り4つのドリームジュエルを探しにいくのだった

第42話終わり

### 第43話 スイートランドの伝説とラビリンسفアントムへの道

残り4つのドリームジュエルを探すマリオ達

そのうちの1つは別次元の空間にあるらしい

進んでいるうちに2匹のクリボーの話し声が聞こえた

マリオ達はクリボー達の会話を隠れて盗み聞きする

クリボーA「ラビリンسفアントムって、知ってるか？」

クリボーB「一度迷うと2度と出られないっていうあれだろ」

ミルフィー「ラビリンسفアントム？」

クリボー達に気づかれぬよう、小さな声で喋るミルフィー

クリボーA「俺は絶対そこに行かないぜ」

クリボーB「命あつてのものだね」

クリボー達が去っていくとマリオ達は陰から出てきた

ミルフィー「ドリームジュエルはそのラビリンسفアントムにあるかも」

一方こちらはラビリンسفアントムとはある場所

仮面とフードをかぶった女が待ち伏せしていた

???「ここがお前たちの墓場よ」

ラビリンスファントムで待ち受ける謎の女

そしてこちらはスイートランド

女王が何やら本を読んでいた

どうやらスイートランドの伝説が書かれている本らしい

そこへキャミーが来た

キャミー「女王様、またあの話の続きをして」

女王「はいはい、スイートランドは悪しき者に支配され」

キャミーに物語の続きをする女王

女王「悪しき者の名は×××××」

かつてスイートランドを危機におとし入れた邪悪な者の名を言う女王

名前は今はまだ秘密である

女王「そして×××××は闇の奥深くへと封印され、スイートランドに平和が戻ったのです」

数分後、話が終わり静かに本を閉じる女王

一方こちらはキノコワールド

マリオ達が敵を倒しながら進んでた

マリオ「ファイアボール」

ボツボツボツボツ

ファイアボールでファイアブ羅斯を倒すマリオ

ルリナ「ファイア・ウィップ」

ジュゲム「わあああああ」

ルリナもファイア・ウィップでジュゲムを撃退する

バツガルフ「しかしドリームジュエルのある場所は分かったが、どうやって行くんだ？」

マリオ「うーん…」

ラビリンスファントムへ入る方法を考えるマリオ達

そこへ変な宇宙人がやって来た

宇宙人「ラビリンスファントムに入る方法なら知ってる」

ミルフィー「本当！？」

ラビリンスファントムに入っているという宇宙人、果たして彼は何者なのだろうか？

第43話終わり

## 第44話 目指せ！ラビリンスファントム

ラビリンスファントムへ行く方法を知っている宇宙人と会ったマリ  
才達

バツガルフ「ラビリンスファントムに行く方法を知ってるだ！？」

宇宙人「はい」

ルリナ「じゃあ、あんたはそのラビリンスファントムに行ったこと  
あるの？」

宇宙人「私も仲間と一緒に رفتことがありますが、でもみんなは迷  
子になってしまい、私だけが無事に出られたのです」

どうやらこの宇宙人はラビリンスファントムからの唯一の帰還者ら  
しい

宇宙人「だがやめといった方がいい、あそこに行けば最悪の場合死ぬ」

マリオ「いや、俺たちはそこに行かなきゃならないんだ」

ドリームジュエルを手に入れるためにもラビリンスファントムへ行  
こうとするマリ才達

宇宙人「本気か！？」

マリオ&ルリナ&バツガルフ「本気の本気！！」



すごい気迫で迫るマリオ達

宇宙人「わかった、そこまでの覚悟があるなら教えよう、このずっと先に空間の裂け目がある、そこにお前たちの技をぶつけて大きくするんだ」

ラビリンスファントムへ入る方法をマリオ達に教える宇宙人

宇宙人「気をつけろ、ラビリンスファントムはその名の通り、迷路の空間だ！戻っているのか進んでるのか、右に行ってるのか左に行ってるのかさえ分からないほどだ」

マリオ「大丈夫！絶対生きて戻ってみせる」

宇宙人「じゃーなー」

手を振って見送る宇宙人

一方こちらはラビリンスファントムのとある部屋

女が手を組んで立っていた

???「いつでも来るがいい、この私が地獄に送ってあげるわ」

マリオ達を待ち受ける謎の女

そして暗黒魔殿ではメフィストが自分の部屋でモンブラ達とババ抜きをしていた

モンブラボの持っている2枚のカードをじっくりと選ぶパフェーラ

ババを取ろうとすればニターとするが、そうでない方を取ろうとすると寂しそうな顔をしていた

それを見て笑いを堪えるパフェーラとタルトウート

モンブラボ「ああゝゝ！！また負けた」

10連敗してしまい、悔しがるモンブラボ

メフィスト「ババを取ろうとする時とそうでない時のお前の顔が違うからわかりやすかったぞ」

モンブラボ「そうなのか？なら今度はずっとこの顔だ」

今度はムスツとした顔でゲームをするモンブラボ

タルトウート「おいおい、大丈夫？」

その頃マリオ達はラビリンسفアントムを目指していた

とつぜん前方からマグナムキラーが飛んできた

ルリナ「えーい！！！」

カキーーーーン

炎のバットでマグナムキラーをホームランにするルリナ

マリオ「マグナムキラー選手、無念のさよなら負け」

ルリナがマグナムキラーをホームランして実況するマリオ

ミルフィー「野球の実況をやっとる場合かーーーー！！！！」

実況するマリオに突っ込むミルフィー

マリオ「あはは、そうでした」

気を取り直して進むマリオ達

ラビリンスファントムへ入るため、マリオ達は空間の裂け目がある場所を目指すのだった

第44話終わり

## 第45話 進めマリオ一味！空間を裂け目を目指して

ラビリンスファントムに行くため、空間の裂け目を探すマリオ達  
少し進むと未知が途切れていた

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオ、すると横に通路があった

次元技を使いながら進んでいくマリオ達

進むとまた道が途切れていた

クルン

次元技を解除するマリオ、しかしそこは空中だった

マリオ&ルリナ&バツガルフ「わあああああ!？」

真っ逆さまに落ち、次元技を使った所まで戻されるマリオ達

再度次元技を使い、進むマリオ達

さっき次元技を解除して落ちたところまで進んだマリオ達

マリオ「ミルフィー」

ミルフィー「ん~~~~」

マリオも今度は次元技を解除せず、ミルフィーの不思議な力を使う

パアアア

不思議な力でブロックを出現させるミルフィー

マリオ達はミルフィーが出現させたブロックを足場にして進んでいく

進むと行き止まりだ

クルン

マリオは次元技を解除し、さらに進んでいく

一方キノコ王国ではピーチ姫の大搜索が行われていた

兵士キノピオA「そっちはどう？」

兵士キノピオB「全然だめだ」

総力をあげてピーチ姫を探すキノピオ達

そしてマリオ達は空間の裂け目を目指していた

少し進むと巨大な岩が転がって来た

クルン

次元技を使ったが、逃げ場がない

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン

マリオ達と一緒に影の中に入るルリナ

岩が通り過ぎるとマリオ達は影の中から出た

進んでいくと空間の裂け目があった

バツガルフ「あれだ!!」

ルリナ「ミルフィーお願い」

ミルフィー「ん〜」

空間の裂け目に不思議な力を使うミルフィー

すると空間の裂け目がドアに変わり、マリオ達はその中に入っていた

入るとそこはただの1本道の通路だった

ミルフィー「ラビリンスファントムじゃないけど、確実にドリーム  
ジュエルには近づいているわ」

ルリナ「この空間の向こうにラビリンスファントムがあるのね」

マリオ達はラビリンスファントムを目指し、空間をさらに移動する  
のだった

第45話 終わり

## 第46話 ついに到着！ラビリンスファントム

空間の中へと入っていったマリオ達

進むとバリアが現れた

ブオン

バリアを張ってマリオ達の攻撃を防ぐバリア

マリオ「それ」

クルン

次元技を使い、バリアの死角に回るマリオ

ルリナ「ベーーーー」

そしてルリナはバリアを挑発して、攻撃を自分に向けさせる

バリアのすぐ近くまで来るとマリオは次元技を解除する

マリオ「とう」

ジャンプでバリアを倒すマリオ

一方こちらはラビリンスファントム

ある部屋では謎の女が退屈そうにしていた



謎の女「少し体でも動かしておきましょう」

マリオ達が来るまでの間、運動を始める謎の女

その頃暗黒魔殿ではメフィスト達が食事をしていた

タルトウート「ムフフフ」

クルン パッ

モンブラボのチキンに次元技をかけて自分のところに出現させるタルトウート

モンブラボ「おれのチキンが！タルトウート！！！」

タルトウート「知らないね」

モンブラボ「ふざけんな！お前以外に誰がいるんだ！？」

シラを切るタルトウートに怒るモンブラボ

すごい喧嘩になり、ケチャップがパフェーラの顔についた

パフェーラ「やったわね！！」

パフェーラも変身し、3人のケンカになってしまっ

ドガララララ ドオオン

メフィスト「やめんかーーーー！！！！！」

活を入れて3人の喧嘩を止めるメフィスト

シフォリア「食事中にみつともないです」

そしてマリオ達は謎の空間を進んでた

進むと大群のタイルが迫ってきた

ルリナ「ファイア流星群！！！」

ボボボボボボボ

ファイア流星群でタイルを一掃するルリナ

タイルを倒し、先に進むマリオ達

入ると空間の裂け目を発見

ミルフィー「ん~~~~」

空間の裂け目に不思議な力を使うミルフィー

すると空間の裂け目がブロックに変化した

マリオ「それっ」

パシュンパシュンパシュン

ブロックを叩くと、マリオ達はどこかへ消えた

数十秒後、マリオ達は意識を取り戻す

バツガルフ「マリオくん！」

マリオ「バツガルフ、ここは？」

ミルフィー「感じる、この空間のどこかにドリームジュエルが」

ルリナ「じゃあここがラビリンスファントム」

ついにラビリンスファントムに辿り着いたマリオ達、果たしてドリームジュエルを手に入れることはできるのか？

第46話終わり

## 第47話 異次元大迷宮ラビンスファントム

ついにラビンスファントムに着いたマリオ達

マリオ「このどこかにドリームジュエルがあるのは間違いなさそうだな」

マリオ達はドリームジュエルを探しに行った

少し進むといき止まりだ

マリオ「それっ」

クルン

次元技を使うマリオ、するとドアを発見した

バツガルフ「こんなところにドアがあつたとは」

ドアに入っていくマリオ達

ドアから出ると天井に敵がいた

ミルフィー「天井に敵がいるわ」

ルリナ「いえ、目の前にも敵が」

バツガルフ「どっちが上か下か分かんない」

マリオ「とにかく進むしかない、ファイアボール」

マリオ達は敵を倒しながらラビリンスファントムの中を進んでいく

進むとドアがあり、入るマリオ

ドロドロ

入ろうとした途端、ドアがモンスターになった

ルリナ「ファイアウィップ」

化けドア「ぎいいい」

ファイアウィップで化けドアを倒すルリナ

マリオ「あぶなかった、ドアに扮してくるとは」

化けドアを倒し、先へ進むマリオ達

進んでいくとまたドアを発見した

バツガルフ「あのドアを調べてくれ」

ミルフィーは不思議な力で目の前のドアを調べる

ミルフィー「大丈夫、今度は本物のドアよ」

本物のドアと分かったマリオ達は入っていく

入ると今度は左右の壁にタイルがいた

目の前にはブロックがあつた

ルリナ「何かしら？このブロック」

ブロックを叩くルリナ、すると左側の壁に着いた

バツガルフ「あのブロックは重力の方向を変えるみたいだな」

再びブロックを叩くマリオ達、当然今度は天井に移動する

天井を移動するマリオ達、奥まで行つたが何もなかった

マリオ「それっ」

クルン

次元技を使つたが、何もないようだ

ミルフィー「任せて！」

不思議な力で辺りを調べるミルフィー、すると見えないドアを発見した

ミルフィーは不思議な力で見えないドアを出現させる

マリオ達はミルフィーが出現させたドアに入っていく

出ると今度は最初にいた部屋にいるが、逆さまだ

ミルフィー「ここって最初にいた場所じゃない！」

ルリナ「でも今は逆さまに立ってるわ」

マリオ「上下左右はおろか、進んでるのか、戻ってるのかさえ分かんらん」

上も下も右も左も前も後も分からない迷宮ラビリンスファントム

マリオ達はラビリンスファントムの奥までたどり着く事ができるのか？

第47話終わり

## 第48話 回転部屋と3D立体迷路

ラビリンスファントムの中を進むマリオ達

マリオ達は現在、最初にいた部屋を逆さまになって進んでた進んだが、行き止まりだ

マリオ「それっ」

クルン

じげんわざを使うマリオ、すると左側に穴があった

穴に入っていくマリオ達

すると別の部屋に出てきた

そこにはドアが4つあった

ミルフィー「ん~~~~」

不思議な力でドアを調べるミルフィー、全部本物のドアだ

ミルフィー「大丈夫、4つとも本物のドアよ」

ルリナ「どれから行く？」

マリオ「まず俺から決めさせてもらうぞ、一番左のドアだ」



一番左のドアに入っていくマリオ達

出るとそこは部屋が回転していた

マリオ「何だこの部屋は!？」

バツガルフ「気分が悪くなってくる」

ジャンプしながら進んでいくマリオ達

奥まで行くとスイッチがあり、マリオはそれを叩いた

ゴゴゴゴゴゴ

地響きが鳴ったが、すぐに治まった

バツガルフ「今の地響きは？」

スイッチを叩いたマリオ達は戻っていった

部屋から出るとマリオとルリナはバツガルフの背中をさすった

バツガルフ「うう、もう少しで吐くところだった……」

数十秒背中をさすってもらい、バツガルフは気分がよくなった

バツガルフ「もう大丈夫だ、次は右から2番目のドアに行こう」

バツガルフの指示通り、2番目のドアに入っていくマリオ達

さっきの回転部屋と違い、何もなかった

マリオ「ミルフィー、念のため調べてくれ」

念のため、ミルフィーに周りを調べてもらうマリオ達

ミルフィー「大丈夫、何もないわ」

マリオ「そうか、じゃ」

ピューーーーー ドガッ

マリオ「な……に……」

勢いよく走っていくマリオだが、突然何かにぶつかった

マリオ「どうなってるんだ？」

クルン

次元技を使うマリオ、何と周りが迷路になっていた

ルリナ「こっつて、迷路よ」

クルン

解除すると、何もない部屋になった

バツガルフ「ここの部屋は2Dで見れば何もなかったあの部屋だが、

3Dで見れば立体迷路というわけか」

マリオ達は次元技を使いながら立体迷路を進んでいく

奥まで進んでいくと、またもやスイッチがあつた

ルリナ「さっきの部屋にあつたのと同じスイッチね」

再びスイッチを叩くマリオ

先ほどと同様に地響きが鳴つたが、すぐに治まつた

ミルフィー「まただわ、何なのかしら？」

マリオ「どこか変化したのは間違いなさそうだな」

ルリナ「それより早く戻りましょ、次はあたしが決めるわ」

ドアが4つある部屋に戻るマリオ達

ルリナ「一番右のドアにするわ」

一番右のドアを指示するルリナ、そこにはどんな罠があるのか？

第48話終わり

## 第49話 透明ブロックの部屋とスイッチだらけの部屋

ラビリンスファントムの中を進むマリオ達

マリオ達はルリナが指示した一番右のドアに入っていく

入るともの凄く高いところにスイッチがあった

マリオ「ぬーーーーー」

足に力をため込むマリオ

マリオ「それーーーーー」

ビョーーーーー

マリオ「わああああああ」

スーパージャンプをしたが、スイッチに全然届かなかった

ルリナ「ミルフィー、何かない？」

周りを調べるミルフィー、すると何かあったようだが、出現させることはできないようだ

ミルフィー「何かあるみたい、透明なブロックみたいなものが」

バツガルフ「ミルフィーくん、頼むぞ」

マリオ達はミルフィーの力を使いながら、透明なブロックを上っていく

一番上まで上がると、マリオはスイッチを叩いた

地響きが鳴ったが、すぐに治まった

一方ラビリンスファントムの別の部屋では謎の女がマリオ達が近づいてるのを感じた

謎の女「誰かこっちに来てるみたいだけど、メフィスト様に刃向えばどうなるか」

マリオ達を倒そうと待ち受ける謎の女

そしてマリオ達はドアが4つある部屋まで戻った

マリオ「最後はこのドアだな」

左から2番目のドアに入っていくマリオ達

入るとスイッチがたくさんあった

マリオ「これか？」

ボコン ドオオオオン

その中の1つを叩くマリオだが、スイッチは爆発し、ハズレと書かれた紙が出てきた

バツガルフ「バツバリアン！！！」

バツバリアンを召喚するバツガルフ

バツガルフ「あのスイッチを片っ端から叩いてくるのだ」

バツガルフの指示通り、スイッチを叩いていくバツバリアン達

バツガルフはバツバリアンを次々と召喚する

多くのバツバリアンを犠牲にしながらも、スイッチは残り1つとなった

ルリナ「これね」

最後のスイッチを叩くルリナ

ドオオオオオオオオオン

マリオが最初に叩いたのより、10倍の爆発がなり、ハズレと書かれた紙が出てきた

マリオ「どういう事だ？ミルフィー！」

マリオに言われ、部屋の中を調べるミルフィー

するともう1つスイッチあった

不思議な力でスイッチを出現させるミルフィー

マリオ「もう1つあったとは」

バツガルフ「これが本物のようだな」

ミルフィーが出現させたスイッチを叩くバツガルフ

今度は本物で、地響きが鳴った

数秒後、地響きが治まった

マリオ達はドアが4つある部屋まで戻った

戻ってみると土管が2つあるが、片方には鍵がかかってた

ルリナ「鍵がかかってる方の向こう側にドリームジュエルがあるかも」

バツガルフ「その可能性は大だ、まず鍵を探してこないと」

土管の鍵を探しに、もう1つの土管に入っていくマリオ達

ラビリンスファントムを進むマリオ達、目的のドリームジュエルまであと少しだ

第49話終わり

## 第50話 衝撃のミス・プリンセス・モモ

ドリームジュエルのある部屋を目指し、ラビリンスファントムを進むマリオ達

土管から出ると、マリオたちは天井にいた

進んでいくとスイッチがあり、マリオはそれを叩いた

グルン

スイッチを叩くと、マリオ達は床についた

スイッチを切り替えながら、天井と床を進んでいくマリオ達

奥まで行ったが、何も無かった

マリオ「それ」

クルン

次元技を使うマリオ、すると横にドアがあった

ドアに入っていくマリオ達

出るところにはタイルとブートンがいた

ルリナ「魔法の炎!!」



魔法の炎で一気に敵を倒すルリナ

しかしブートンは体が小さくなったただけだった

体が小さくなったブートンはスピードが上がってた

バツガルフ「速い!？」

マリオ「気をつけろ、こいつは体が小さくなると動きが速くなるんだ」

ルリナ「ファイア・ウィップ」

バシイイイン

ファイアウィップで攻撃し、またブートンが小さくなった

マリオ「あと1発だ」

しかしブートンのスピードは異常なほどになっていた

バツガルフ「速すぎて狙いを定められない」

ルリナ「魔法の…きゃっ」

マリオ「ファイア……わっ」

技で攻撃しようとするマリオ達だが、体当たりで阻止されてしまう

バツガルフ「私がやるっ」

バツガルフは心の目でブートの動きを見極める

バツガルフ「……………、そこだ!!!」

ビシャアアアン

杖から電撃を出して攻撃するバツガルフ

見事ブートンに命中し、倒した

ブートンを倒すと鍵が現れた

ミルフィー「これってさっきの土管の鍵じゃ？」

マリオ「きっとそうだ」

鍵を手に入れたマリオ達は土管のどこまで戻って行った

戻ると鍵のかかった土管に鍵を使った

鍵を外すと土管が通れるようになり、マリオ達はその土管に入っていく

土管から出ると目の前にはドリームジュエルがあった

マリオ「ドリームジュエルだ！」

ミルフィー「やったー」

ドリームジュエルをゲットし、喜ぶミルフィー

バツガルフ「ここを出て次のドリームジュエルを探そう」

ボコン

ミルフィー「キャッ」

マリオ達がラビリンスファントムを出ようとした途端、何者かがミルフィーを踏みつけ、ドリームジュエルを奪った

謎の女「これがドリームジュエル」

ルリナ「何者なの！？」

キツとした表情で問いかけるルリナ

謎の女「ワタクシはメフィスト様のニューフェイス！！ミス・プリンセス・モモ」

ミス・プリンセス・モモと名乗る謎の女

ミス・プリンセス・モモ「メフィスト様はある目的のためにドリームジュエルを集めていらっしゃる、残りもそちらへ渡してもらおうか」

ルリナ「そう簡単に渡すわけないでしょ！」

ミス・プリンセス・モモ「それなら少し痛い目にあってもらおうかしら」

マリオ達の前に現れた謎の女、ミス・プリンセス・モモ、果たして  
マリオ達はミス・プリンセス・モモからドリームジュエルを取り返  
せるのか！？

第50話 終わり

## 第51話 ミス・プリンセス・モモの秘密兵器

ミス・プリンセス・モモとの戦闘になったマリオ達

ミス・プリンセス・モモ「これでもくらえ」

ジャンプし、空中から攻撃しようとするミス・プリンセス・モモ

ルリナ「カゲぬけパンチ!!」

バキヤ

しかしルリナは高く伸び上がり、ミス・プリンセス・モモを上から叩きつける

ミス・プリンセス・モモは体勢を立て直し、着地に成功する

ミス・プリンセス・モモ「ピンクハリケーン!!!」

ビューアアアア

ピンクハリケーンで攻撃するミス・プリンセス・モモ

マリオは余裕でかわし、反撃に出る

マリオ「ファイアボール!!」

ルリナ「魔法の炎!!」

ボボボボボ　ゴオオオオ

ミス・プリンセス・モモ「ああああああ」

ダブルファイア攻撃に怯むミス・プリンセス・モモ

さらにそこへバツガルフが一撃を仕掛ける

バツガルフ「エレクトサンダー！！！」

バアアアアアン

エレクトサンダーで壁まで吹っ飛ぶミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「ちくしょう、ここまでとは」

マリオ「ドリームジュエルを返してもらおうか」

ミス・プリンセス・モモ「こうなったら奥の手を使うわ」

そう言うミス・プリンセス・モモは手に持ったりモコンのボタンを押した

ゴゴゴゴゴゴゴ

何かが近づく音がして来た

数秒後、マリオ達の前に大きなロボットが現れた

バツガルフ「うちのバツテンダーよりダサいな」

ミス・プリンセス・モモ「これが私の最高パートナー、プリティーレインガー」

マリオ「プリティーレインガー？」

プリティーレインガーに乗り込むミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「お前らをここでプリティーレインガーの餌食にしてやる」

マリオ「来るぞ」

構えを取るマリオ達

ミス・プリンセス・モモ「ヘルズ・ファイアー……！！！！」

左手から凄まじい勢いの炎を発射するプリティーレインガー

ルリナ「カゲがくれ……！！」

シュウウウン　ゴオオオオオオ

カゲがくれでヘルズ・ファイアを避けるマリオ達

ルリナ「魔法の炎……！！」

ミス・プリンセス・モモ「ヘルズ・ファイアー……！！」

ゴオオオオオ　ドン

互いの炎がぶつかり合い、相殺

マリオ「あのロボ、結構やるな」

ルリナの魔法の炎と互角の威力を持つヘルズ・ファイアに少々驚く  
マリオ

果たしてプリティーレインガー攻略の策はあるのか？

第51話終わり



## 第52話 バッガルフ戦闘不能！脅威のジ・オブ・キャノン

マリオ達とミス・プリンセス・モモの戦闘は続く

プリーティレーンガーでマリオ達を襲うミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「チェーンシザーカッター」

胸から鎖付きのカッターを発射するプリーティレーンガー

マリオ「スピニアタック」

ジャンプし、上空からスピニアタックでチェーンシザーカッターを落とすマリオ

ミス・プリンセス・モモ「次はこいつで攻撃だ」

今度は数えきれないほどのエネルギー弾を出現させるミス・プリンセス・モモ

ミルフィー「凄い数だわ！！」

ミス・プリンセス・モモ「いくわよ！ブレイク・レイン」

バババババババババ

マリオ達に向かって無数のエネルギー弾を発射するミス・プリンセス・モモ

ババババババ

マリオ達はミス・プリンセス・モモの攻撃を次々と弾く

一瞬の隙を突き、バツガルフのすぐ前まで近づく

ミス・プリンセス・モモ「ドリルスクリーーーー」

プリーティーレインガーのドリルでバツガルフを攻撃するミス・プリンセス・モモ

バツガルフ「くっ、バツバリアン」

ギユウウ ドバアア

間一髪バツバリアンを召喚し、ダメージを抑えるバツガルフ

ルリナ「ファイア・ウィップ!!!」

マリオ「ビッグ・ファイアボール」

バツガルフの援護に回るマリオとルリナ

ミス・プリンセス・モモ「ミラージュ・シールド!!」

ミラージュ・シールドでマリオとルリナの攻撃を跳ね返すミス・プリンセス・モモ

ミルフィー「マリオとルリナの攻撃が跳ね返された!？」

ミス・プリンセス・モモ「ミラージュ・シールドがある限り、プリティーレインガーにエネルギー系の攻撃は通用しないわ」

マリオ「ならまず普通のパンチやキックでそのシールドを壊すまでだ」

プリティーレインガーに攻撃をするマリオ達

ミス・プリンセス・モモ「はああああ」

上昇してマリオ達の攻撃をかわすミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「まずはお前だ、ジ・オブ・キャノン!!」

プリティーレインガー最強の技で攻撃するミス・プリンセス・モモ

バツガルフ「ぐわああああああ」

マリオ&ルリナ&ミルフィー「バツガルフ!!!」

ジ・オブ・キャノンを受け、バツガルフが戦闘不能になってしまう

ミス・プリンセス・モモ「お前たちも倒されなくなったらドリームジュエルをよこしな」

再びジ・オブ・キャノンを撃とうとするミス・プリンセス・モモ

ルリナ「マリオ、そろそろ遊びは終わりにしましょ」

マリオ「そうだな、とつとつこいつからドリームジュエルを取り返

そう」

ミス・プリンセス・モモ「本気だったのに対し、マリオとルリナは今まで遊び同然で戦ってた

ミス・プリンセス・モモ「くたばりなさい！！ジ・オブ・キャノン  
！！！！」

ドオオオオオオン

ルリナ「ファイア・ウィップ！！！！」

ファイア・ウィップでジ・オブ・キャノンを弾き返すルリナ

ミス・プリンセス・モモ「ばかな！！」

最強の技が跳ね返され、驚くミス・プリンセス・モモ

マリオ「これが最後だ、ドリームジュエルを返して、ここから出るんだ」

ミス・プリンセス・モモ「メフィスト様のため、ドリームジュエルは奪う！！」

マリオの最後の警告も無視し、攻撃するミス・プリンセス・モモ

ルリナ「本当に痛い目に合わないかわからないみたいね」

ついに反撃に出るマリオとルリナ、どのようにしてプリティーレインガーを破壊するというのか！？



### 第53話 マリオ死す！？ファイナルキャノンの威力

マリオ達とミス・プリンセス・モモの戦闘は続く

ルリナ「ヒートジャベリン」

ズガアアアアン

ヒートジャベリンでプリティーレインガーの胴体を貫くルリナ

マリオ「ボムドッカン!!」

ドオオオオン

さらにマリオがそこを狙ってボムドッカンで攻撃する

ミス・プリンセス・モモ「バカな!このプリティーレインガーが負けるなど」

マリオとルリナの圧倒的な強さの前に焦りの色を隠せないミス・プリンセス・モモ

ミス・プリンセス・モモ「チェーンシザーカッター」

ガガガガガガ

プリティーレインガーのチェーンシザーカッターを真剣白羽取りで受け止めるルリナ

ルリナ「はあああああ」

ボシュウウウウウ　ボロ……

ルリナは両手から凄まじい炎を出してチェーンシザーカッターを灰にしてしまう

ミルフィー「2人ともこのまま一気にやっつけて!!」

絶好調なマリオとルリナにミルフィーもテンションが上がる

ミス・プリンセス・モモ「こうなったら………」

ミス・プリンセス・モモはプリーティレーンガーのあるボタンを押した

ジュウウウウ……

マリオ「なんだ?」

ミス・プリンセス・モモ「ファイナルキャノンよ、この部屋もろとも消してやるわ」

数十秒後、ファイナルキャノンのエネルギーが満タンになった

ミス・プリンセス・モモ「消えて無くなりなさい!!ファイナルキャノン!!!!」

ズドオオオオオオオ

マリオとルリナにファイナルキャノンを撃ち出すミス・プリンセス・モモ

撃った先にはマリオ達の姿が無かった

ミス・プリンセス・モモ「やった！メフィスト様の邪魔をする者はいなくなった」

マリオ達を倒したと喜ぶミス・プリンセス・モモ、しかし……

ズガアアアアン

次の瞬間、背後から凄い衝撃が来た

ミス・プリンセス・モモ「なっ……………」

後ろを振り向くとマリオとルリナがいた

実は攻撃が当たる寸前にマリオは次元技、ルリナは影の中に入って回避していたのだ

マリオ「とどめだ！！ビッグファイアボール！！！！」

ビッグファイアボールで攻撃するマリオ

ミス・プリンセス・モモ「げげっ！まさか！？」

ドオオンドオオオンドオオオオオオ

プリーティーレインガーは大爆発し、ミス・プリンセス・モモはドリ



ームジュエルを落として倒れる

ミス・プリンセス・モモ「しくじったわ、今日のところは諦めたほうが良さそうね、だが次に会う時がお前たちの最期よ！覚えときなさい」

ラビリンスファントムから撤退するミス・プリンセス・モモ

数十秒後、マリオはバツガルフを起こした

バツガルフ「マリオくん、あいつは？」

マリオ「逃げていったよ、ついでにドリームジュエルも」

手に入れたドリームジュエルを見せるマリオ

バツガルフ「おお！そうか、しかし……」

ミルフィー「ん？」

バツガルフ「あのミス・プリンセス・モモって奴、どこかで会ってるような気がするが……」

ルリナ「あたしも知ってる人のような気がする」

マリオ「誰なんだろう？」

ミス・プリンセス・モモの正体を考えるマリオ達

マリオ「とにかく、残りのドリームジュエルも集めよう」

ミルフィー「あと3つで全部揃うわ」

ミス・プリンセス・モモの妨害を跳ね除け、ドリームジュエルを手に入れたマリオ達、残るドリームジュエルはあと3つ、次はどこに向かうのか

第53 終わり

## 第54話 暴虐！荒ぶる海底王

ここは暗黒魔殿

ドリームジュエル奪還に失敗したミス・プリンセス・モモが戻っていた

シフォリア「みなさん、ご紹介します、私たちの新しい同胞ミス・プリンセス・モモです」

ミス・プリンセス・モモ「あんたがマリオ達に負けた筋肉バカと大間抜けフェアリンね」

モンブラボ「なんだと!?!」

パフェーラ「もっぺん言ってみなさい!!」

バカにされ、激怒するモンブラボとパフェーラ

タルトウート「そう言うキミもやられたそうじゃない」

ミス・プリンセス・モモ「う、うるさい」

タルトウート「ヌフフフ」

メフィスト「マリオ達は次のドリームジュエルのある場所に向かう筈だ、誰に行ってもらうか」

モンブラボ「自分にお任せください!メフィスト様!」

自分から出撃しようとするモンブラボ

タルトウート「僕もいくよ」

そしてタルトウートもそこへ向かうらしい

メフィスト「ではモンブラボ、タルトウートよ、ドリームジュエルを奪ってくるのだ」

モンブラボ&タルトウート「はっ!!」

モンブラボとタルトウートはドリームジュエルのある場所へ向かった

パフェーラ「あーあ、2人とも行っちゃった」

モンブラボとタルトウートが出かけ、退屈そうなパフェーラ

シフォリア「そう焦る必要はありません」

その頃マリオ達はラビンスファントムから出ていた

ルリナ「あと3つでドリームジュエルが全部揃うわね」

マリオ「ミルフィー、次のドリームジュエルの場所を教えてください」

ミルフィー「うん」

ミルフィーは静かに目を閉じ、ドリームジュエルを心を通わせる

数秒後、ミルフィーが目を開けた

ミルフィー「次のドリームジュエルは海の底にあるわ」

次なるドリームジュエルは海底にあるらしい

マリオ「海の底と言われても」

ルリナ「どこを探したら……」

バツガルフ「流石にヒント無しで探すのは不可能に近いな」

海は広いのでドリームジュエルがどこにあるかわからない

一方こちらは海底のとある都市

街中が大賑やかだ

海底住人A「私は1度でいいから地上を歩いてみたいわ」

海底住人B「一体どんなところかしら」

地上に憧れる海底住人たち

海底住人C「みんなー！隠れろー！王が来たぞー！ー」

海底住人Cが王が来たと言ったみんなに隠れるように言う

海底王「わしに刃向うものはおらぬかー」

鮫に乗って暴れまくる海底王

数分後、海底王は通り過ぎていった

住人は海底王にビクビクしながら生活してるらしい

その頃マリオはドリームジュエルの情報をあつめていた

マリオ「どうだった？」

バツガルフ「だめだ、全く手がかりなし」

海底にあるドリームジュエルの情報を集めようとするマリオ達、果たしてドリームジュエルのある場所を聞き出すことはできるのか！？

第54話終わり

## 第55話 海底都市アクアリスの伝説

海底にある6つ目のドリームジュエルの場所を知ろうと情報集めるマリオ達

ルリナ「6つめが海の底にあるのは分かってるのに」

バツガルフ「その場所が分からないんじゃないでしょうか」

マリオ「せめて手がかりやヒントがあれば」

マリオ達は少しでも有力な情報を得ようと聞き込みを続ける

その頃モンブラボとタルトウートはドリームジュエルがある海底を探していた

モンブラボ「何でお前までついて来るんだ？」

タルトウート「キミだけじゃ心配だからね」

モンブラボ「あんな奴の1人や2人、このモンブラボ様1人で十分だ」

一方こちらは暗黒魔殿

ある部屋でミス・プリンセス・モモがプリーティレーンガーを改造していた

ミス・プリンセス・モモ「まだまだメンテナンスが必要ね」

パフェーラ「あんたの出る幕は無いわ、あいつらを仕留めるのは私なんですもの」

ミス・プリンセス・モモ「負け惜しみを」

バチバチと火花を散らすパフェーラとミス・プリンセス・モモ

その頃マリオ達はドリームジュエルについて聞き込みをしていた

フランクリ「ドリームジュエルの場所は分らんが、海底都市の事なら知ってるぞ」

ルリナ「教えてください」

教えてくださいと、フランクリに頼むルリナ

フランクリ「大昔、海底で築いていった国があった、その国のなはアクアリス」

マリオ「アクアリス？」

フランクリ「アクアリスは海の底にある伝説の都市、そこに住んでる一部の者は地上に憧れている」

バツガルフ「そのアクアリスの付近にドリームジュエルはありそうだな」

一方こちらはアクアリス



王が過ぎ去り、ホツとする海底住人たち

海底住人A「王様、この頃変よね」

海底住人B「この前まではあんなに僕らの事を慕ってくれてたのに」

海底王はかつて、人々から慕われる良き王だったらしい

そしてマリオ達はフランクリからアクアリスの情報を聞いていた

フランクリ「そしてこれがアクアリスの場所を示した地図じゃ」

アクアリスの場所が示された地図をマリオ達に渡すフランクリ

マリオ「ありがとうフランクリ」

バツガルフ「かなり古い地図だな」

ルリナ「今の地図と見比べてみましょう」

マリオはアクアリスの場所が示された古い地図と今の地図を見て、場所を特定しようとする

ルリナ「分かったわ！アクアリスがあるのはゴロツキタウンの港とトロピコアイランドのちょうど真ん中辺りだわ」

バツガルフ「そういう事なら私に考えがある、この近くに新しく作った転送装置がある、それで一旦アジトへ戻ってそこからまたゴロツキタウンに」

マリオ「すぐ行こう」

マリオ達は転送装置でゴロツキタウンへ向かうため、バツガルフについて行った

数十分後、マリオ達は建物の前についた

バツガルフ「この建物の中に転送装置がある」

建物の中に入っていくマリオ達

バツガルフ「まずはこれで一旦アジトへ戻ろう」

マリオはボタンを押し、転送装置を作動させる

転送装置でメガバツテンのアジトへ向かうとするマリオ達

アクアリスを見つけ出すことができるのか？

第55話終わり

## 第56話 潜れマリオ！海底を目指して

転送装置でメガバツテンのアジトへ向かうマリオ達

そしてこちらはメガバツテンのアジト

研究員の一人が新薬の開発に熱中していた

ウィイイイン

メガバツテンのアジトに来たマリオ達

研究員「バツガルフ様！？」

ミルフィー「ここがバツガルフさんのおうちですか」

ルリナ「いや、おうちじゃなくてアジトなんだけど」

バツガルフ「すぐにまた出かけなきゃならないんだ、行き先をゴロツキタウンの地下にしろ」

研究員「はい、ただちに」

バツガルフの命令で、転送装置に行き先をゴロツキタウンにする研究員

研究員はスイッチを押し、マリオ達をゴロツキタウンの地下に送る  
数十秒後、ゴロツキタウンに地下に着いたマリオ達

ミルフィー「船とかどうするの?。」

マリオ「船ならもう用意できてるぜ」

ルリナ「コルテスの船ね」

マリオ「その通り、土管で地上に出よう」

マリオ達は土管でゴロツキタウンの地上に出た

一方こちらは海底

アクアリスから少し離れたところで海底王が不気味な笑いを浮かべていた

海底王「もう少しでこの海を……様のものにできる」

ミズクリボー「……様、おかえりなさい」

アクアジュゲム「……様、次はどうするおつもりで?。」

海底王「そうだな……」

住人達を脅かす次の手段を考える海底王

その頃マリオ達はゴロツキタウンの港に来ていた

マリオ「コルテス、久しぶり」

コルテス「マリオではないか！少し見ないうちにまた腕を上げたな」

ルリナ「それよりあたし達を連れてって、ドリームジュエルを見つけないやいけないの」

コルテス「ドリームジュエル？なんだそれは？」

ルリナ「これよ」

コルテスにドリームジュエルを見せるルリナ

コルテス「これがドリームジュエルか……」

バツガルフ「コルテス、ドリームジュエルについて知ってることは？」

コルテス「そういえば、最近、海に流れ星のようなものが落ちて来たんだ」

海に投げられ星が落ちたと話すコルテス

その頃モンブラボとタルトウートはボートで海上を走っていた

モンブラボ「情報によると、ドリームジュエルはこの辺りの海にあるはずだ」

モンブラボはボートから降り、海に飛び込む

それに続きタルトウートも海に潜っていった

その頃マリオ達はコルテスの船で海の上を進んでた

コルテス「こうしてると昔を思い出すわ、あの時マルコにはちょっと腹がたったけど」

マリオ「でもそのおかげでメガバツテンを追い出すことができたんだ」

昔の事を語り合うマリオとコルテス

話をしてるうちにゴロツキタウンとトロピコアイランドのちょうど真ん中についた

コルテス「ここがゴロツキタウンとトロピコアイランドの真ん中だ、俺様はここで待機するわ」

マリオ「よし行くぞ」

マリオ達は海の中に飛び込んでいった

ひたすら下へと泳いでいくマリオ達

すこし進むとドクゲッソーが現れた

ミルフィー「ドクゲッソーよ触れただけで毒に侵されてしまっわ」

不思議な力でドクゲッソーを調べるミルフィー

バツガルフ「ミニライトニング」

小さな電撃で攻撃するバツガルフ

ドクゲッソーを追い払い、先に進むマリオ達

海底を目指し、ひたすら潜るマリオ達、アクアリスとはどんなところなのだろうか？

第56話終わり

## 第57話 モンブラボ再び

海底のアクアリスを目指し、ひたすら潜るマリオ達

離れた所ではモンブラボとタルトウートが泳いでた

モンブラボ「アクアリスまであとどのくらいだ？」

タルトウート「まだ随分あるよ」

モンブラボ達もアクアリス目指して海底へ向かう

その頃マリオ達はミサイルプクと遭遇した

マリオ「なんだプクプクか、ファイアボール」

プクプクと勘違いしてファイアボールを投げつけるマリオ

ドオオオオオオン

ファイアボールが当たった途端、ミサイルプクは大爆発する

ミルフィー「あれはミサイルプク、火に反応して大爆発するわ」

ルリナ「普通のプクプクと見極めてから攻撃しないと」

普通のプクプクとミサイルプクを見極めるように肝にめいじるマリオ達



進んでいくとまたプクプクが襲ってきた

ルリナ「今度は普通のプクプクね、えい」

普通のプクプクと見破り、炎で攻撃するルリナ

その頃アクアリスでは海底王がまた住人たちを脅かしていた

海底王「わしに殺されたい奴は刃向うがいい」

好き放題に暴れまわる海底王

海底住人「おのれ王め！」

我慢の限界に達した海底住人の一人が海底王に立ち向かう

海底王「少しは勇気のある奴がいたか」

海底王に立ち向かうが、返り討ちにされてしまう

海底王「この王の身体は素晴らしいぞ」

自分の身体を素晴らしいと言う海底王

その頃マリオ達はアクアリスを目指して泳いでた

離れた場所でもモンブラ達がアクアリスを目指してた

数分後、マリオ達とモンブラ達が遭遇した

マリオ&モンブラボ「ああ~~~~!!!!」

マリオ「お前はモンブラン」

モンブラボ「モンブラボだ!!」

名前を間違えられ、激怒するモンブラボ

バツガルフ「マリオくん、こいつは？」

マリオ「メフィストの手下だ」

ルリナ「あいつらもこのドリームジュエルを狙ってるみたい」

タルトウート「僕もいるよ」

タルトウートが次元技を解除して現れた

モンブラボ「こいつらは俺一人で片づける、お前は手を出すんじゃないぞ」

タルトウート「じゃ、お手並み拝見させてもらつよ」

クルン

タルトウートはモンブラボの戦いを邪魔しないよう、次元技を使って見物する

ルリナ「この前あんなにコテンパンにされたのにまだ懲りないの？」

モンブラボ「今度はお前達がコテンパンにされる番だ」

今度こそマリオ達を倒そうと、気合満々のモンブラボ

ミルフィー「何度来ても同じよ!」

マリオ「アクアリスに行く前に準備運動とするか」

戦闘態勢に入るマリオ達

再び始まるうとするモンブラボとの戦い、勝利の女神はどちらに微笑むのか?

第57話終わり

## 第58話 水中の激戦！VSモンブラボ

水中でモンブラボとの戦闘になったマリオ達

バツガルフ「サンダーボール！！」

バツガルフのサンダーボールで戦闘開始だ

サッ

モンブラボ「トルネードタイフーン！！！！」

サンダーボールを避け、トルネードタイフーンで反撃するモンブラボ

ギョオオオオオオオ

しかも水中なので巨大な渦が襲ってくる

渦から逃れるマリオ達

マリオ「危なかった」

ルリナ「この前よりパワーアップしているわ」

モンブラボ「モンブラボパンチ！！！！」

パンチで攻撃するモンブラボ

ルリナ「カゲぬけパンチ！！」

それに対し、ルリナも力ゲぬけパンチで対抗する

ドオオオン

互いのパンチが激しくぶつかりあう

ルリナ「たあああああ」

モンブラボ「ぐああああああ」

ルリナの方が上回っており、吹っ飛ばされるモンブラボ

その頃離れた場所では海底王が鯨に乗って移動していた

海底王「グフフフフ」

不気味に笑う海底王、その手にはドリームジュエルが握られてた

一方こちらはスイートランド

祭壇の上に一人の少女が座ってた

そこへ女王がやって来た

女王「オリーブ元氣ないわね」

オリーブ「はい、ミルフィーの事が心配で」

オリーブはミルフィーの友達らしい

女王「本当なら今頃は星の祭壇で祭り気分なのに」

オリーブが座ってた祭壇は星の祭壇らしい

その頃マリオ達はモンブラボとの戦闘中だ

モンブラボ「ふん!!」

マリオ「ぐほおお」

腹にモンブラボの攻撃が直撃

その隙にルリナとバツガルフが挟み撃ちに成功する

モンブラボ「しまった」

ルリナ「終わりよ、ファイアビーム!!!」

バツガルフ「ライティングスパークル!!!」

ゴオオオオ ババババババ

ダブル攻撃でとどめを刺すルリナとバツガルフ

モンブラボ「うおおおおおお」

ダブル攻撃でモンブラボを倒したマリオ達

モンブラボ「またしても……」

タルトウートが次元技を解除して現れた

タルトウート「次の手は考えてあるよ」

モンブラボ「その次の手とは？」

タルトウート「それはここでは言えないよ、そろそろ行くよ」

パシュン

瞬間移動で去っていくタルトウート

モンブラボもタルトウートを追っていた

マリオ「あぶないところだったな」

ミルフィー「アクアリスはもうすぐよ」

モンブラボ達を撃退し、再びアクアリスを目指すマリオ達

泳いでいくと下に大きな街があった

ルリナ「ねえ、あれがアクアリスじゃない？」

バツガルフ「きっとそうだ、間違いない！」

モンブラボ達の妨害も跳ね除け、マリオ達はアクアリスに到着したのだった

第58話終わり

## 第59話 海底王を倒せ！必殺ダブルパンチ

モンブラボ達を撃退し、アクアリスに着いたマリオ達

ルリナ「ここがアクアリス」

バツガルフ「まさか海の中に街があるとは驚いたぞ」

数十秒後、マリオ達は海底に着いた

????「キミだれ？」

海底住人の一人がマリオ達に問いかける

マリオ「俺はマリオ」

ルリナ「あたしルリナ」

バツガルフ「バツガルフだ」

自己紹介するマリオ達

????「僕はウミピオっていうんだ」

マリオ「なあウミピオ、ドリームジュエルを知らないか？」

ウミピオ「そう言えば王様がいつも宝石を持っていたよ」

ルリナ「もしかして、こんな形じゃなかった？」



ウミピオにドリームジュエルを見せるルリナ

ウミピオ「そう！その形の宝石だったよ」

王がドリームジュエルを持つてゐる事を知ったマリオ達

ウミピオ「でも王様には逆らわない方がいいよ、逆らうと僕らみんなひどい目に合うんだ」

ミルフィー「ひどい」

ルリナ「ゆるせないわね」

王の暴虐非道ぶりを聞き、怒りをあらわにするマリオ達

ウミピオ「前はあんなに優しくかったのに」

海底王は以前は優しくかったらしい

ウミピオ「どうしてあんなに変わったんだ？」

バツガルフ「私達が王の目を覚まさせてやる」

話してゐるうちに海底王がやって来た

ウミピオ「王様だ！」

海底王「ん？なんじゃお前たちは？見かけないツラだな」

マリオ「今すぐアクアリスの人たちを脅かすのをやめてドリームジ  
ュエルを渡せ!!」

怒って海底王に要求するマリオ

海底王「逆らう気か？ならば死あるのみだ!!」

戦闘態勢に入るマリオ達

海底王「むん！」

水の槍で攻撃する海底王

ルリナ「カゲがくれ」

シュウウウン

影の中に入って攻撃をかわすルリナ

マリオ「ファイアボール!!!」

海底王「レインボール!!!」

バシュウウウウ

ファイアボールとレインボールがぶつかりあって相殺

そこへバツガルフが間髪入れず攻撃を加える

バツガルフ「サンダーショット」

海底王「アクアウォール」

アクアウォールでサンダーショットを防御する海底王

マリオ「ファイアナツクルパンチ！！！」

ルリナ「カゲぬけパンチ！！！」

ドゴオオオオオン

海底王「ぐわああああああ」

ダブルパンチで海底王をやっつけたマリオ達

ルリナは海底王が落としたドリームジュエルを拾った

ミルフィー「今回は楽勝だったね、探すのに苦労したけど」

以外にもあっさり6つめのドリームジュエルを手に入れたマリオ達、  
残る2つは果たしてどこに？

第59話終わり

## 第60話 裏切りのルリナ

海底王を倒し、ドリームジュエルを手に入れたマリオ達

突然、海底王から何かが飛び出し、ルリナの中に入ってしまった

数秒後、海底王が起き上がった

海底王「う…うつ…、ここは？私は今まで何を？」

バツガルフ「このやろう！まだ生きていたのか」

海底王「このありさまはどうしたことが」

バツガルフ「とぼけるな！これはお前がやったんだだろうが」

海底王「私が…、いえ何も覚えてません」

海底王はアクアリスを襲撃したことを覚えてないらしい

バツガルフ「なら貴様の脳に電気ショックでも起こして」

マリオ「待てバツガルフ！」

バツガルフを止めるマリオ

マリオ「本当に何も覚えてないか？」

海底王「はい」

マリオ「ルリナ、おいルリナ」

ルリナを呼びかけるマリオだが、彼女は沈黙していた

ミルフィー「ルリナさんどうしちゃったの？」

ルリナ「はあああああ」

ゴオオオオオオ

炎でマリオ達を攻撃するルリナ

マリオ達はルリナの攻撃をかわす

マリオ「何をするんだ！？ルリナ」

ルリナに向かって激怒するマリオ

ルリナ「これはいい、前の男より断然強い体だ」

バツガルフ「ム！ルリナくんは憑依してる貴様！貴様は何者だ！？」

ルリナが何者かに憑依されてるのを見抜いたバツガルフは問いかけた

「???」「俺様の名はパラトイサー」

海底王が暴虐を起こすようになったのはこのパラトイサーの仕業らしい

そして今はルリナに寄生していた

パラトイサー「あとでこの炎でお前らもろともアクアリスをこの炎で消し去ってくれる」

マリオ「ファイアボール！！！」

パラトイサー「ふん」

ドオオオオオオン

マリオ「うああああああ」

バツガルフ「マリオくん！」

パラトイサーの攻撃で吹っ飛ばされるマリオ

ルリナに寄生しているので、海底王の時とは桁違いだ

ミルフィー「マリオ！マリオ！！」

パラトイサー「ハハハハハハハ」

パラトイサーは高笑いして去っていった

数分後、マリオが起き上がったが、パラトイサーはもうそこにはいなかった

海底王「あのパラトイサーは寄生生物の一種かも知れない」

バツガルフ「寄生生物って、他人の中に入り込んで思い通りに操る生物だろ」

海底王「その通り、今そのパラトイサーはキミ達の仲間の一人に寄生してる」

マリオ「行こう！ルリナとドリームジュエルを取り戻すんだ」

ミルフィー「うん！」

バツガルフ「うむ」

マリオ達はパラトイサーからルリナとドリームジュエルを取り戻すべく、動きだしたのだった

第60話終わり

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4937r/>

---

ミラクルスーパーペーパーマリオ

2011年11月27日13時45分発行